

50年のあゆみ

2001年9月

奈良県山岳連盟



目 次

創立50周年にあたって	山口健次郎	1
	日本山岳協会会長 田中文男	2
創立50周年を祝して	奈良県体育協会会長 柿本善也	3
所属山岳会の紹介		5
50年のあゆみ		15
連盟結成の頃	広瀬敏雄	16
奈良県山岳連盟創成前後 の登山界の動き	橋本源之丞	18
奈良国体を省みて	米澤 清	24
50年のあゆみ		25
資料		39
奈良県山岳連盟規約		40
奈良県山岳連盟規約（旧）		44
加盟団体		46
役員名簿		47
指導員・審判員		48
歴代役員		50
各種賞の受賞者		56
国体出場選手監督と大会 の変遷		57

創立 50 周年にあたって

奈良県山岳連盟会長
山口健次郎

奈良県山岳連盟は、昭和 26 年に発足して、今年、創立 50 周年という節目の年を迎えました。発足の頃は戦後間もなく、日々の糧にも事欠く生活の中で、登山という当時では反家庭的な活動を献身的にされた諸先輩、そしてその後も山岳会や山岳連盟の活動と運営に献身的な情熱を注がれた諸岳兄の努力によって今日の奈良県山岳連盟があるものと思います。心より感謝申し上げる次第であります。

この半世紀を顧みますと、多くの人が登山へ目を向けた頃には、奈良県山岳連盟も次第にその加盟団体数が増し、一時期には 20 団体を越えた記録が残されています。しかし、大阪のベッドタウンの性格を持つ奈良県においては県内で活動する団体や会員の数は少なく、そこへ近年の若い人達の登山離れに伴い、加盟数の減少と高齢化が目立ち始めました。私達の努力不足も多々あると思います。このように歴史が推移する中で、昭和 59 年の国民体育大会、第 1 回全日本登山体育大会の共同開催、第 18 回全日本登山体育大会の主管、第 1 回と第 8 回高等学校登山大会の支援、全国遭難対策協議会の共催など全国的な大会の開催と運営に関わってきました。その時期、その時代の多くの会員の献身的な努力と協力によって小さな山岳連盟がそのときその時の試練を乗り越えることができました。

近年の登山界の変化にどのように対応するのか、これが現在の試練であろうと思います。若人の登山離れ、中高年登山者の増加に加えて、その日が楽しければ良しとする気風も強くなりつつあるように思えます。また、学校関係の登山部の動向も気がかりに思われます。かつて仲間であった大学山岳部もその大半が消滅し、現在は加盟が無くなりました。これと同じく高等学校登山部も多くの課題を抱えているように見受けられます。生涯スポーツとしての登山の発展に重心を置きながら組織の強化に力を注がねばならないと思われま。一方で多様化する遭難対策、自然保護や競技登山との関わりなどの課題も残されています。これからはじまる世紀の課題は益々多岐にわたるものと思われま。

山岳連盟の歴史に関わる種々の照会を各方面から寄せられることがあります。その際、あまりにも過去の記録が残されていないことを痛感します。少なくとも現存する資料だけでも整理して残したいと、この小冊子を編纂しました。散逸を防ぐためにも事務局で整理保存するだけでなく、歴史は連盟に関わる人達全員が共有する財産として皆様の手元に残してほしいとの思いであります。過去の事業はもとより、役員についても不明な部分が多々あります。資料の個々に整合の取れない部分、役員など当事者にお尋ねしても明快な返答が得られない部分が多々ありました。編纂を進めながら記録の大切さを痛感させられました。できるだけ正確を期しましたが、限られた資料によってまとめたもので、役員や団体関係に不明部分があり、また誤りが残っているかとも思います。次の機会に補遺し、さらに完全な記録として後世に伝えていただきたいと願うものです。

奈良県山岳連盟が創立 50 周年を迎え、会員の皆様は勿論のこと、関係する諸団体や多くの方々からこれまでに頂いたご指導とご協力に改めて感謝申し上げます。益々著しい変化を伴うと思われる 21 世紀の登山界の発展のための道づくりに全員で努力を重ねる所存であります。なお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いを致します。

創立 50 周年を記念して

日本山岳協会会長
田中文男

奈良県山岳連盟の創立 50 周年、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

いま、私の書棚に、数冊の登山地図が並んでおります。その中の 1 冊“奥秩父”を取り出してみました。わずか 32 頁の薄くて紙の悪い本です。奥付を見ると昭和 24 年の発行。定価は 10 円。全部で 30 冊刊行の予定ですすでに 20 冊が発行済み。“近畿の山々”は間もなく発行の予定とありました。

中学生だった私は、これらの地図帳を頼りに山々を登っておりました。だから、あちこちの頁に色鉛筆で朱線が引いてありました。“近畿の山々”が刊行されたら大台ヶ原へ行ってみたい、そう思っていたようです。

奈良県では、この頃、山の先輩の方々は山岳会を復活させたり、あるいは誕生させて、さらに奈良県山岳連盟を組織しようと努力されていたのです。まだ日常の食料すら入手困難という戦後間もない時代だというのに。

こういう方々の支えによって、昨年、社団法人日本山岳協会は創立 40 周年を迎えることができました。思えば奈良県山岳連盟の方々には大変お世話になっております。

第 1 回全国登山体育大会は日本山岳協会の前身である全日本山岳連盟が主催し、主管は関西地区山岳連盟。会場は大峰山系で奈良県山岳連盟のテリトリーです。第 1 回ですから前例がない。先催県がない。本当に大変なご努力だったろうと思います。今から 45 年前の 1956 年のことでした。さらにその翌年には第 1 回全国高等学校登山大会が大峰、大台ヶ原で開催されております。素晴らしいエネルギーだと思いました。そのエネルギーの持続が今日までの奈良県山岳連盟を支えてこられたのではないのでしょうか。

1964 年には第 8 回全国高等学校登山大会を、そして 1977 年には第 18 回全日本登山体育大会の開催を引き受けておられます。

さらに 1984 年には“わかくさ国体”の開催。その時の素晴らしい思い出の数々は参加された方々によって今日まで語り継がれております。

今年は 21 世紀という新しい時代のスタートです。この記念すべき年に奈良県山岳連盟は創立 50 周年をお迎えになります。思えば第 1 回全国高等学校登山大会の開催など登山史に残る記念すべき事業を主管してこられました。偶然ではありません。それだけの情熱を持っておられたからだと思います。

50 年の歳月の流れと共に、時代は大きく変化しました。ガイドブックは立派になり、登山地の情報はコンピュータで、地図はナビゲータで即座に得られるようになりました。しかし、私達は人を支え、人に支えられて登山活動を続けることができました。これからも人とのつながりは大切にしたいと思います。その意味でも、今日まで奈良県山岳連盟を支えてくださった方々に、日本山岳協会会長として、心からお礼を申し上げたいと思います。どうか、これからもご一緒の道を歩ませてください。

最後にもう一度、創立 50 周年おめでとうございますと申し上げると共に、今後、益々のご発展を祈念致します。

創立50周年を祝して

財団法人奈良県体育協会
会長 柿本善也

このたび、奈良県山岳連盟が創立50周年を迎えられ、ここに記念誌「奈良県山岳連盟50年のあゆみ」を発刊されますことは誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。

貴連盟におかれましては、昭和26年の創立以来、数々の実績を残され、本県の体育・スポーツの普及・振興、並びに競技力の向上に多大の貢献をされました。これもひとえに、関係の皆様のご努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

とりわけ、昭和59年の「わかくさ国体」において、全種別優勝の完全総合優勝という輝かしい成績を収められたことは、本県の山岳競技の発展に大きな影響をもたらしました。国民体育大会の正式競技種目として採用されて日も浅く、「自然に親しむスポーツ」から「競技登山」への意識の変革など選手強化にあたっては、関係の皆様の並々ならぬご努力があったと推察します。

また、近年は大台ヶ原清掃登山の実施やオオヤマレンゲの保護要望書の提出など自然保護の観点から地道な活動にも取り組んでいただいております。

ここ数年、若者の登山離れが進む一方、中高年登山愛好者が年々増加する傾向にあると聞いており、今後は、競技スポーツとしての山岳競技の発展を図るとともに、生涯スポーツとしての登山の普及発展にもより一層のご尽力をいただきたいと思います。

21世紀を迎えて、週休2日制の導入による余暇の増大や、高齢化の一層の進展等により、県民のスポーツに対する関心は、ますます高まることが予想されます。スポーツを通して、次代を担う健全な“こころ”と“からだ”を持った青少年を育成し、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある奈良県づくりを推進していくため、貴連盟の果たされる役割は大きく、なお一層のご協力をお願いいたします。

おわりに、奈良県山岳連盟のますますの充実・発展と、関係者皆様方のご健勝・ご活躍を祈念申し上げ、お祝いのこととします。

所属山岳会の紹介

青垣の山脈を歩く会



■ 会の概要

事務所	〒630-8281 奈良市南半田中町15 米澤 清方
電話番号	0742-22-2095
会長	小松 勝
創立日	1989年
会員数	170名

我が会は、県下はもとより、各府県の山脈(ヤマナミ)をこよなく愛し、自然と学び、自然を尊び、自然に親しみ、自然との調和を損なわないようにし、安全で楽しい山登りをし、節度ある自然の利用と、自然の環境の保全につとめ、美しい自然を大切にし、美しい自然を永く子孫に伝えるように努力している。

中高年の集まりである関係で、沢登りや、岩登りは行っていないが、年に一度ほど、海外のすぐれた山脈(ヤマナミ)のトレッキングを企画し、見聞を広め、日本の美しい自然をいつまでも保って行きたいと願うのが会の目的である。

山行は月に1~2回。平均年齢は57歳。(最高齢 男子90歳、女子80歳)

明日香山岳会



■ 会の概要

事務所 〒 634-0144 高市郡明日香村平田 1434 番地の 1 山口滋正方
電話番号 0744-54-2427
会長 辰巳恵規
会員数 7名

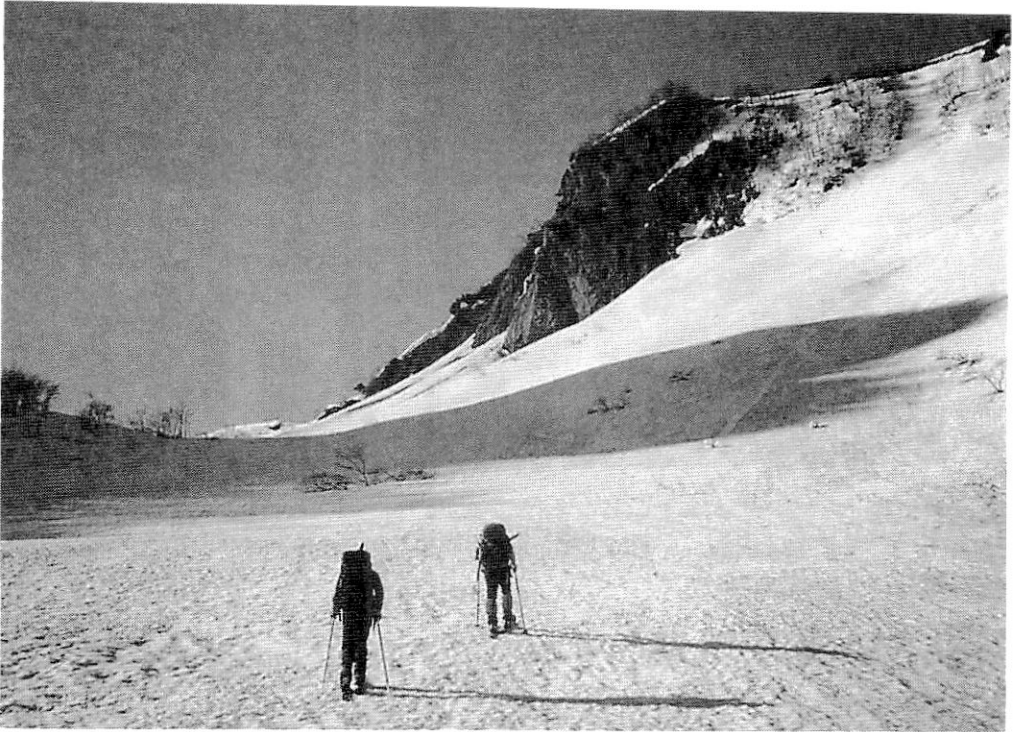
■ 明日香山岳会の歩み

我が山岳会は、最初、山好きな者が3人集まって明日香山の会を設立。その後会員数が少しずつ増え昭和51年4月名称を明日香山岳会に変更し、今に至っている。会員数7名の小さな会であるが、地道な活動を続けている。発足当初は、大峰周辺・高見山・大台周辺の近郊の山を中心に登っていたが、昭和55年頃から夏山合宿を北アルプスで行うようになった。第1回目の合宿は、剣岳周辺の簡単な岩登り・薬師岳までの縦走でした。会員の殆どがアルプスが始めてで雄大な自然の美しさに心奪われたものでした。感動と苦しさが残っています。会員の中には、「もう絶対こないぞ」と言っていた者が、また1年経つとアルプスにやってくる。山の魅力はそのあたりにあるように思われる。その後はもっぱら縦走を中心に剣岳周辺・槍ヶ岳・穂高連峰・後立山連峰・表裏銀座などに行った。その都度、山の素晴らしさに心を打たれた。仕事の都合で参加できるのは、多いときで4名。2名しか参加できないときもあった。会員数が少ないのでこれも仕方がないと思う。

北アルプスの主なところは殆ど縦走したので、今度は、南アルプス及び中央アルプスで合宿を行うことになった。北岳を中心とする白鳳三山、鳳凰三山、塩見岳など南アルプス北部、中央アルプスの駒ヶ岳、宝剣岳で行った。北とは違った山の様子、厳しさがあったように思う。

最近では、以前に比べると山行回数が減り、まとまった人数でアルプスに登山が出来なく、近郊登山を楽しむようになってきた。今は、会員の平均年齢は、46才。個々の仕事も忙しくなり、全員集まって山行出来ず、個々に登っている状況。このことは、我が山岳会のみならず他の会でも同じ状況だといえる。小さな会ではあるが、チームワークは抜群で、話題が山のことになると時間も忘れて話をしている。これからもそんな楽しい会であることを心より願う。

篝山の会



■ 会の概要

事務所 〒 639 - 2155 奈良県北葛城郡当麻町竹内 781 番地 松下正一方

電話番号 TEL 0745 - 48 - 5646

会役員 代表理事 松下正一 理事 浜川三男 理事 笹岡 昇

創立 1965年4月1日（創立時会員12名） 会員数 2001年度 7名

■ 創立と足跡 1965年4月、既存の山岳会を退会した人々を中心に12名で発足し、同年内に4名が入会、翌年、有望な若手2名が入会し、合計18名で、篝火は激しく燃焼しはじめる。春、夏、冬、それぞれの合宿山行を北アルプスを舞台に、雪と岩を求めて華々しく展開された。特に1967年と68年夏に剣岳の岩場で、冬には穂高で、10人程により多くのルートがトレースされている。

1969年冬に15名の参加をえて、槍ヶ岳集中で、横尾尾根、北鎌尾根、東鎌尾根硫黄尾根にとアタックしている。また、小太郎岩、紅ヶ岳の開拓にも力を数年間注いでいる。しかし、1972年10月、南アルプス北岳バットレスを登攀した翌週、同じメンバーで曾爾高原で遊ぶ者あり、小太郎岩を登る者ありと、活発な充実した活動が行われていたが、夜になっても帰宅せず、翌日小太郎岩上部で2名の遭難を確認し、2日かかりで遺体を收容するという痛ましい事故を起こす。

それ以降、岩への傾倒も薄れ南アルプスの沢、奥美濃の雪山、頸城周辺での山スキーへと様変わりしていき、数名ながら活動は続いている。

■ 今後の展望 37年目をむかえ、あの篝火も、なんとか燃えている、というぐらいになってきた。もう間もなく、静かに、そっと、燃え尽きて、消えていくだろう。

樫原山岳会



会創立の頃



■ 会の概要

事務所 〒 634-0845 樫原市中曾司町 6 9 0 横山須直方
電話番号 0744-22-4608
会長 横山須直
創立日 昭和 35 年 10 月

昭和 33 年頃より、山歩きの好きな人達数人が集まり、登山やスキーを中心に同好会を作り活動を行っていました。その後、同好者もしだいに増え、昭和 35 年 10 月に樫原山岳会として発足し樫原市体育協会山岳部、同年に奈良県山岳連盟に加盟し、第 6 回樫原市民体育祭及び第 12 回県民体育大会から参加を始めました。

その後、登山・スキーに魅力を感じる若者が増え、最大で会員数は 60 名程度を数え、会の運営も充実し、一般山歩きと中級程度の登山活動に分け、会員の親睦と技術向上を図りながら、多忙な行事をこなしてきました。

高度経済成長期に入り、娯乐的要素の含んだ多種多様なスポーツが普及しはじめると次第に別の活動に進む会員も増え、会員数も減少しました。

登山を自然の中でのスポーツとして捉えることで山の自然を味方にしながら、安全は自分で確保し、自分の命は自分で守ることを原則に会の秩序を守りながら登山活動に努めています。

地域山岳会の発足の頃から、市民体育大会には登山を安全に楽しもうとする中高年層を対象とした人達を募り、自然に親しみ、人と人との繋がりを深める山登りを進め好評を得ております。

高等学校体育連盟登山・スキー部



春山新人大会 戸狩にて

■ 会の概要

事務局 〒630-8031 奈良市柏木町248 奈良県立奈良商業高等学校内
電話 0742-33-0293 FAX 0742-33-9647
代表者 部長 廣田英樹(生駒高校校長) 専門委員長 登り賢二(奈商)
副専門委員長 中尾靖章(郡山) 副専門委員長 瀧元一夫(育英西)
創立 昭和28年
加盟校 育英高校 育英西高校 生駒高校 一条高校
畝傍高校 王寺工業高校 郡山高校 桜井高校
添上高校 高田高校 富雄高校 奈良高校
奈良工業高校 奈良商業高校 二階堂高校 室生高校

■ 活動内容

高校生の登山大会の発祥地として奈良県の山々が選ばれ、先輩達の汗と熱意によって、近畿高体連登山部を創設し、全国高体連登山部の組織を近畿から立ち上げた。

主な大会は

- 昭和30年8月 第1回近畿高等学校体育連盟合同登山(大台ヶ原周辺)
- 昭和32年8月 第1回全国高等学校登山大会(共同主管 大台ヶ原、大峰山)
- 昭和39年8月 第8回全国高等学校登山大会(主管 大峰山系)

1年間の主な事業

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 5月 国体高校県予選 | 11月 近畿クライミング大会 |
| 6月 インターハイ県予選兼近畿大会県予選 | 12月 スキーインターハイ県予選 |
| 8月 インターハイ | 2月 スキーインターハイ・近畿大会 |
| 9月 近畿大会・県高校総体 | 3月 春山新人大会 |
| 10月 近畿クライミング県予選 | |

中学校体育連盟登山部

■ 会の概要

事務局所在地 〒 630-8443 奈良市南永井町 98-1 都南中学校気付

電話 0742-61-7070 FAX 0742-61-7079

代表 専門委員長 松本恭和

創立 1977年頃

部員数 中学生約 30名 顧問 8名

■ 中学生の登山活動を支援して

中体連登山部は中学生の登山活動の支援を目的として活動を続けてきた。2001年度は登録校6校であるが、15年ほど前の最盛期には13校登録され顧問部員数を合わせて100名近い登録の年もあった。

活動状況は、各都市レベルで総合体育大会・新人大会、県レベルで総合体育大会・新人大会・夏季リーグ講習会（岩稜歩行技術講習）・冬季リーダー講習会（雪上歩行訓練）を実施している。

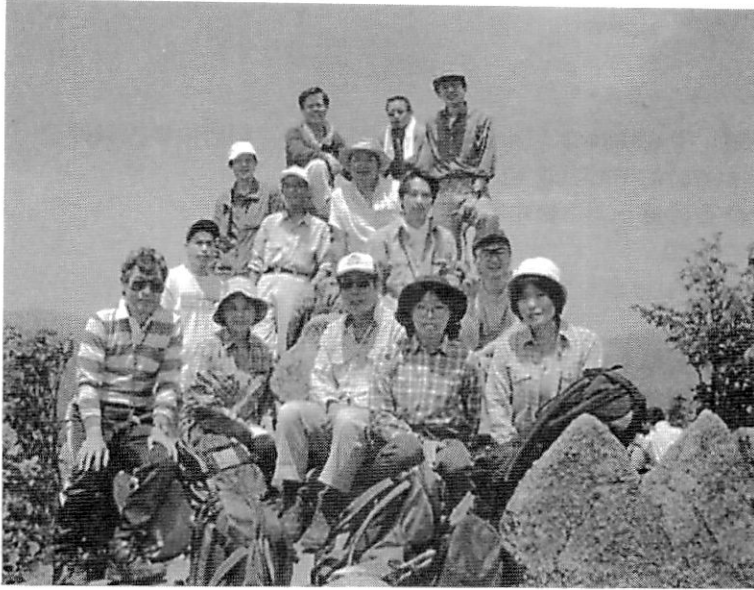
中体連主催の山行は県内を中心に活動をしているが、各校では部員のレベルに合わせ、夏山合宿等でアルプス方面に遠征をしている学校もある。顧問会議で毎年年間計画を作成し、年度ごとに各校の部員のレベルに合わせたスケジュールを作成している。

奈良市の総合体育大会では、競技登山(生駒山)を取り入れ優勝を目指すことで部員たちの意識の向上と基礎技術の習得をはかっている。

ここ数年は部の数そのものが減少し、会そのものの運営も難しくなっており、大会運営もOBの応援を借りるなどして実施している状況である。

個人レベルでは登山活動をしている生徒もたくさんおり、中体連に登録しないで活動している学校もあるので、より多くの学校に登録をしていただき、より活発な活動にしたいと考えている。

天理よろづ相談所山岳会



■ 会の概要

事務所 〒 630-8552 天理市三島町 200 番地 天理よろづ相談所気付
電 話 0743-63-5611 Fax 0743-62-5578
代 表 松田 勝
創 部 昭和 42 年 8 月 1 日 会員数 32 名

天理よろづ相談所は天理教の信仰に基づいて、高度医療を推進する病床数 1001 を有する病院を中心に、医学と信仰と生活の 3 面から人々の救済を目指し、昭和 41 年 4 月 1 日開設された。

山岳部は相談所開設後 1 年、勤務者の山好きが寄り集い、昭和 42 年 8 月創部の職域グループで構成し、早や 35 年を数えた。

当部は山を愛し、友と語らい、「安全で楽しい山行」をモットーに四季を通じての山行、月例会、人工壁によるクライミング等の活動を続けている。

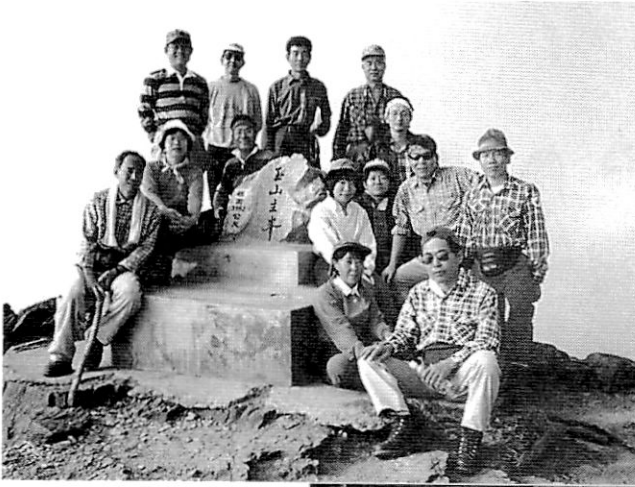
和気あいあいの中にも厳しい自然に対処するうえから各自が常に技術を磨く姿勢を持っている。

創部と同時に県山岳連盟に山岳会として加盟し、わかき国体山岳競技においては 7 名が大会に参加し競技運営に貢献した。

平成 8 年 10 月、健保組合体育館竣工に際し幅 3 ㍎、高さ 9 ㍎のクライミング・ウォールを設置、会員のみならず勤務者に対するクライミングの楽しみを指導している。

会員の高齢化に伴い、次第に低山に移りつつあるが県内の山々は相当数の山行を重ねている。今後は若者の参加を求め、活性を図り目指す楽しい山行をモットーに、より充実した登山活動を続けると共に、岳連加盟の山岳団体と協調のうえ岳連の発展と当部の活性を期待している。

奈良岳志会



■ 会の概要

事務所 〒637-0061 五條市中町467-2 (藤原義弘方)
電話 07472-6-2860
代表 吉村 忠明 (大和郡山市八条町 747)
創立 1967年4月9日 会員数 32名 (他にOB会員約20名)
e-mail fuji88wr@d9.dion.ne.jp
ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~fuji88wr>

■ 大峰・台高をホームグラウンドにして

奈良岳志会は創立以来34年経過し、数多くの会員が育ってきた。現在、30名余りの多彩な会員が1年を通じて活動している。

活動状況は週末を利用した大峰・台高・鈴鹿方面での登山が中心であるが、2日間かけて東海・北陸方面へも足を伸ばしている。また、四季折々、日本アルプス等で合宿を行っている。第4火曜日に開く例会で全ての会員が参加できることを主眼とした山行計画を立てており、月平均2回以上山行を実施している。ここ10年余りは沢登りを中心とした山行を行い、大峰・大台・鈴鹿のほとんどの沢に足跡を残している。最近では、日本アルプスの沢にも入渓している。

1998年には本会初の海外山行となる玉山(台湾)登山を実施した。

奈良山岳会



H13年5月の春山山行（湊沢にて）

■ 会の概要

事務所 〒630-8441 奈良市神殿町407-24 梅屋則夫方
電話番号 0742-63-0086
代表者名 会長 福本高治
創立 昭和8年9月 会員数 75名
ホームページ <http://www.sikasenbey.or.jp/~freeflit>

■ 活動内容

奈良県で最も古くから創立された山岳会で、吉野山群の谷、峯を早くから踏破し地域のパイオニア山岳会として今日に至っている。会の活動方針はオールラウンドの山行を会員が相互に企画し実行することとしており、自由山行を基軸としている。

それだけに、ロッククライミング、フリークライミング、積雪期登はん、沢登り、尾根縦走、軽ハイクまで幅広く活動していることが特色。

■ 会の自慢は、伝統ある会歌と徽章。「それ憧憬の夢遙か……」で始まる会歌は作詞、作曲ともオリジナルで名作の誉れが高い。また、法隆寺百済観音の光背には竹竿を擬した支柱があり、その最下部の1節に高さ約5.5mの山岳図が彫刻されている。この山岳図を模写したものを会の徽章としている。これは日本最古の山岳絵図の一つで、歴史の深さが伺われる。

50年のあゆみ

連盟結成の頃

広瀬敏雄(遺稿)

山岳連盟は戦前からあったのである。昭和 15 年に西日本登山連盟が結成された。目的は無統制な登山を規制していたようである。

翌 16 年には、奈良県も山岳連盟[1]を結成した。奈良山岳会と県公園課（今の観光課）が主体となり、藤木九三さんと聖護院の宮城さんを迎えて発会式を挙げた。その秋には大峯山に於て日本岳連[2]と奈良岳連の共催で行軍練成会が行われた。又明治神宮の大会（今の国体[3]）に毎年 3 名宛参加した。これは神奈川県の大山から東京明治神宮まで全行程を行軍するものである。17、8 年には冬の指導者練成会等も開催した。これらが戦前の山岳連盟の仕事であった。19、20 年は休止状態であったが、戦争が終ると再び動き出した。

21 年には日本山岳会と関西の山岳団体との会合が何回かあって 11 月に国体[4]の第 1 回が関西に於て開催され本県からも代表として増田、広瀬が参加した。

22 年には、県体育運動連盟へ正式に加盟し[た]奈良山岳会が山岳部門を主管することになった。体連の役員には笹谷、小林の両氏が当る。秋には金沢に於て第 2 回の国体が開催され、5 名が参加する。

23 年は一般及び高校を対象に山行をし、9 月には夜行登山も行う。24 年には中学も参加するようになり高校の参加も増加して 6 校となり、益々参加者が増加する傾向になる。

25 年には県体[5]が行われる事になり、9 月に第 1 回を伊那佐山に於て開催した。参加者は奈良山岳会はじめ内牧青年団及び 7 高校と 1 中学の合計 10 団体 75 名で第 1 回としては盛会であった。又その他の登山会にも多数参加するようになった。

26 年には講和成立の秋を期して 9 月 15 日奈良県山岳連盟を結成し、正式に発足することになった。奈良県民の登山の振興を図り、併せて山岳スポーツの発展を期すことを目標に全国各団体とも一層協力することになり、会長笹谷、副会長小林、戸田、理事長米田、その他理事も正式に決定された。これまでは奈良山岳会が全部代行していたのであったが、これで機構がはっきりすることになった。

27 年からは国体選手の選考も推選を止め、予選に依って決定する事になった。加盟団体も遂次増加し、第 6 回の県体には当日参加ではあるが中学も参加するようになった。

31 年には国体が兵庫県で開催されたが、山岳コースが六甲山となった為、全日本岳連の提唱によって大台大峰に於て第 1 回の全日本登山大会が開催された。奈良岳連は関西地区岳連と共に又地元として特に全員が協力した。初めての全国大会であったが大成功裡に終る事ができた。以後全日本大会も国体のように毎年開催される事になり、本県からも選手が参加している。

(以下省略)

編者注 この文は、奈岳連報 1 に故 廣瀬敏雄氏が「岳連のあゆみ」として掲載されたもののうち前半部分を転載し、本誌に適合するよう題名を「連盟結成の頃」と変更した。

奈岳連報 1 は奈良県山岳連盟が発行した唯一の冊子で、A5 版 40 頁から成り、1965 年に発行された。

また、本文において補足が必要と思われる箇所には、[]記号を付記し以下に補足した。
また、文章表現上の補足も[]で囲んで補足した。

- [1] 戦前に県公園課と共に結成されたのは、奈良県山岳連合体と名付けられていた。これが本文中の戦前における奈良県山岳連盟に相当する。この山岳連合体は終戦と共に消滅したものと考えられる。
- [2] 戦前の全国組織として日本山岳連盟が存在した。終戦後は、日本山岳会が日本体育協会に加盟していたので、日本山岳連盟は存在していたが全国的な山岳統括団体として扱われていなかった。その後全国各地域の山岳連盟が組織され、1955年(昭和29年)に全日本山岳連盟が結成された。1960年に全日本山岳連盟と日本山岳会が業務を分担して合同で日本山岳協会が発足。これが日本体育協会に加盟し山岳の統括団体となった。日本山岳協会はその後法人化された。
- [3] 戦前の全国的なスポーツ大会として国民練成体育大会があった。当時日本山岳連盟は大日本体育会(日本体育協会の前身)の加盟団体になってからは行軍登山部会として扱われ、陸軍戸山学校の指導を受けていた。
- [4] 第1回国体は昭和21年、戦災の影響がなかった京都を中心に開かれ、登山部門は関西の日本山岳会(以下JACと略す)の会員が集まり展覧会、講演と映画の会を開催した。奈良からは増田、広瀬が参加。
第2回は東北地区が担当で、JAC会員が中心に医王山に登り国体登山とした。奈良からは、笹谷、増田、奥村、戸田、坂口が参加。
第3回は九州地区で、初めて全国的大会として九住山に集中登山した。ここで日本山岳連盟再建の議論がなされた。奈良からは、戸田、坂口、木下、岩佐、土井が参加。
第4回は関東地区で富士山を会場地としJACが主管したが、全国への参加呼びかけが無く、全国的な大会とはならなかった。奈良県からは引率:上村英男,選手:大西康之,森田真夫,奥田俊一が参加した。何れも高校の教員と生徒で構成された。
第5回は東海地区でJAC東海支部が担当し鈴鹿を会場に高校生大会として開催された。引率:戸田忠之,選手:永田,岡田,福島,花井,藤村,森,森田,村井,岡島が参加。
- [5] 県民体育大会は県体育運動連盟の主催で、昭和24年に第1回が伊那佐山で開催され、75名が参加している。第2回は昭和26年8月に3日間をかけて大台ヶ原、大杉谷で開催。80名が参加した。第3回は昭和27年に開催。

編者注の参考文献

- ・「日本山岳協会40年のあゆみ」,日本山岳協会,pp.18-20(2000年).
 - ・高橋定昌:「日本岳連史」,出版科学総合研究所,pp.205-213(1982年).
 - ・奈岳連報1,奈良県山岳連盟,pp.3-4(1965年).
 - ・奈良山岳会年報「山上」第11号,p.64(昭和38年).
 - ・奈良山岳会年報「山上」第12号,pp.11-13(昭和47年).
- 戦前の奈良県山岳連合体の名称については、
奈良山岳会会報「みなかみ」77号(昭和16年6月)

奈良県山岳連盟創成前後の登山界の動き

橋本源之丞

吉野・大峰の信仰は、古く飛鳥・奈良時代に、吉野川の水に対する信仰と、金峰山（きんぶせん）と称して黄金を埋蔵する山としての信仰から始まる。都に近いこともあって、皇室や貴族の尊崇を受け、平安時代には死者の霊が集まるといふ熊野と結ばれ、大峰奥通りの修行道が開ける。こうして、鎌倉時代に至って吉野・熊野信仰は最盛の域に達する。

しかし、南北朝の対立と南朝の没落、中世末の戦国動乱の結果、吉野の社寺は、次第に衰退に向かう。やがて、天下を統一した豊臣秀吉の盛大な金峰山の花見を契機に、再び復興に転じる。

江戸時代に入って世の中が落ち着くにつれて、庶民の間に、物見遊山を兼ねた社寺参りが流行し、金峰山寺や大峰山寺の門前町、吉野山と洞川には旅館街が形成される。大峰と熊野を結んで奥通りを修行する行者の数は次第に減少を来す。さらに、明治新政府の出した神仏分離令によって熊野三山は神社となり、大峰山寺と結んで修行する必要がなくなった前鬼以南の道は、すっかり途絶えてしまった。代わって江戸時代の後半以後は、紀州藩士や幕府の役人による調査、薬草採取等の登山が行われ、貴重な記録を残している。人跡未踏とまで言われた大台ヶ原山は、こうした人たちによって開かれたのである。

1 近代登山の幕開けと山岳会

松浦武四郎は、1818年（文政元年）、伊勢国一志郡小野江（現三雲町）に生まれ、16歳から江戸以西、九州までを遍歴し、28歳の時、蝦夷地（えぞち=今の北海道）を巡検、その後、サハリン島、知床、千島を探検、その途次、全国の高山に登る。

蝦夷関係の著述は多数に及び、38歳のとき、幕府の役人に起用されて北方経営の任に就く。明治維新後は、新政府の役人に任ぜられる。

依願退職後の明治13年（1880年）、大峰を縦走して熊野に至り、「庚辰遊記」を著す。この書に「余は、性、山水を愛し、諸州を歴遊す」と書いていることから、修行などが目的でなく、趣味としての登山であったと思われる。

明治18年、武四郎68歳の5月、天ヶ瀬から辻堂を経て大台ヶ原に登り、高原や滝を一巡した後、紀州の引本港に下っている「乙酉掌記」。

翌19年5月、伯母谷から西大台の開拓に登り、小椽、東ノ川を通って紀州の船津に下り、更に大河内川を登って千尋滝、七ツ釜滝を見て伊勢の大杉に出ている「丙戌前記」。

続いて明治20年5月、洞川から山上ヶ岳、大普賢岳、笙ノ窟を経て北山に下り、伯母峰、開拓から牛石ヶ原に登る。ここで、北山や熊野から来た人達60余人と大護摩を焚いている「丁亥前記」。

以上、3年連続して大台ヶ原に登っているが、山中のナゴヤ谷源流に小屋を建てていることから、ここに長く滞在する意志があったのかも知れない。

明治21年2月、4回目の大台行きを計画中、武四郎は脳卒中を發し、東京神田で死去した。遺言により、齒をナゴヤ谷の小屋近くの高台に分骨埋葬、石碑を建立した。碑は現在、新しく建て替えられ、大台教会から北西へ20分で達する。

明治27年（1894年）、志賀重昂が「日本風景論」を出版し、以後14版を重ねたが、その付録で「登山の氣風を興作すべし」と呼びかけた。

陸軍、陸地測量部が大台ヶ原山の秀ヶ岳に一等三角点標石を設置した直後の明治28年7月末、植物学者、白井光太郎博士が大台ヶ原に登り、前鬼を経て大峰を縦走し、10日をかけて吉野に下山、この山の優秀さと保存の必要を強調した。大台ヶ原では、松浦氏の小屋を利用したが、神仏分離後の大峰奥通りでは、道が不分明で、案内者を連れながらも随分苦労した様子が後の日本山岳会の「山岳第2年第2号」に出ている。

明治29年(1896年)には、英人ウォルタ・ウエストンが、中部山岳の美を発見して、帰国後に「日本アルプス登山と探検」を出版した。我が国に、ヨーロッパの近代登山をもたらした最初の人と言えよう。

志賀、ウエストンらの影響を受けて、小島烏水、高頭式、武田久吉ら7人が発起人となり、明治39年(1906年)、「山岳会(後に日本山岳会と改称)」が東京に本部を置いて発足した。やがて、各地の主要都市に支部が生まれ、市民の間に登山への関心がほうはいと高まる。

日本山岳会の大北聡彦(伊勢松阪の人)、大西源一(伊勢神宮勤務)の両氏が明治45年(大正元年、1912年)5月、大杉谷を千尋滝、ニコニコ滝、七ツ釜滝、光ノ滝を経て西谷に入り、巴(ともえ)滝を見て大台辻から大台教会(明治32年竣工)に至った。大杉谷を流れに沿って忠実に探査した最初の人であった。大北氏の記録は、日本山岳会の「山岳第7年第3号」に、大西氏のそれは、後に出た奈良山岳会の「山上第11号」に収録されている。

大正4年(1915年)、日本山岳会が講演会と展覧会を大阪で開くや、急に吉野の山への関心が高まった。大阪朝日、大阪毎日の両社が先陣を争って大峰や大杉谷林道に入ったのは、両社の競争を物語る一つの話題であった。この時、毎日新聞の行ったのが、明治以来絶えていた大日岳以南の縦走で、大正5年の夏であった。

大正も末年に至って、アルピニズム発展のときを迎える。関西にもR.C.C.(ロッククライミングクラブ)などの山岳会が創られ、吉野の山の未踏の溪谷に入る人が増えてきた。昭和の初頭、神戸商大(今の神戸大学)山岳部とそのO.B.が大峰の谷歩きと山上、弥山の積雪期登山に記録を残し、「大峰山脈とその溪谷」を出版した。大杉谷本流と支流大和谷、父ヶ谷がR.C.C.によって探査され、その記録は「R.C.C.報告」第4号と第5号に出ている。

続いて昭和6年(1931年)8月、大阪電気軌道(略称、大軌=今の近畿日本鉄道)と大阪毎日の両社によって、大杉谷本支流の大掛かりな探検調査が行われた。この行には大軌、大毎の関係者の外、当時、関西在住の第一線登山家が参加している。

昭和5年4月2日、旧制郡山中学校(今の郡山高校)の一行7人が雪の伯母子岳榎谷で遭難、引率教諭と生徒2人が死亡した。この事件の影響から山に対する世論が高まり、当時、郡山中学校に勤めていた日本山岳会員、笹谷良造が中心になって、同校O.B.らを結集し、昭和8年1月、「奈良山岳会」が発足した。この会の記録は、同会の「L山上」第1号から第12号に掲載されている。

大正の末年以来、吉野の岸田日出男(日本山岳会員)が奈良県庁、各郡役所、事業家に働きかけて設立した半官半民の「大和山岳会」は、政府に対して、国立公園指定運動を進めていたが、昭和になって和歌山、三重の両県が加わり、更に強力となる。この運動が結実して、昭和11年(1936年)2月1日、「吉野熊野国立公園」が3県にまたがった山岳、溪谷、海岸をその区域として指定された。時を同じくして、岸田日出男、笹谷良造共著「吉野群山」と住友山岳会著「近畿の山と谷」が出版された。昭和15年には、大阪電気軌道によって、大杉谷探勝路が造られ、大台ヶ原と桃ノ木の山の家の竣工を見た。

このころになると、日本軍の中国侵略は長期化かつ泥沼化し、欧米諸国による我が国への経済封鎖も加わって、衣類や食糧など、国民生活が不自由になりつつあった。登山界も国家主義的風潮が高まり、国家有為の人材育成に向けての訓練が重んじられた。

昭和15年(1940年)11月には西日本登山連盟が発足、翌年1月には日本山岳連盟が結成され、国家と軍の介入による戦時色が濃厚となる。

奈良県でも昭和16年4月、県庁と奈良山岳会との主導による「奈良県山岳連合会」が生まれ、登山者の指導と訓練を行った。軍部主導の行軍錬成登山や耐寒行軍など、軍国調の強い行事が主流となり、今の国民体育大会に相当する「明治神宮国民錬成大会」では、丹沢山地の大山(おおやま)から明治神宮までの行軍が行われた。

日中戦争は、太平洋戦争へと拡大し、国民は徴兵と生産増強に駆り立てられ、諸物資、燃料の不足から鉄道やバスの運行も減少し、登山を続ける状況ではなくなった。やがて、米軍の反撃が強まると、連日に及ぶ空爆のため、生産活動はほとんど停止し、主要都市は焦土と化した。

2 奈良県山岳連盟結成への動き

昭和20年(1945年)8月、8年以上続いた長い戦争が終わり、恐怖感からは解放されたものの、生命を維持する食糧さえ事欠く生活と悪性インフレ、機関車にまでぶら下って乗る鉄道、木炭を燃やしてのろのろ走り、坂道では尻を押さないに進まないバスでは、登山も容易ではなかった。

翌年になると、市民生活は、不自由ながらもやや落ち着きを取り戻し、営業する山小屋も出始める。昭和21年10月、「第1回国民体育大会(以下、国体という。)」が戦災を受けなかった京都に大阪が加わり、日本体育協会(以下、日体協という。)と文部省の主催で開催された。軍事色を一掃し、スポーツマンシップに基づく競技会に衣替えした大会であった。登山の部は、登山道や施設の荒廃、山への輸送等の面から入山は困難と見て、講演会と展覧会を開催しただけに終わった。

その後の国体登山は、石川県医王山、大分県九重山、富士山、鈴鹿と順調に続く。

昭和25年(1950年)10月、三重県、鈴鹿の山々で行われた第5回国体は、昭和23年に発足した新制高等学校の生徒だけを参加資格とする大会であった。この前後から各都道府県高等学校体育連盟(以下、高体連という。)に登山専門部の設置が始まり、昭和23年に創設された全国高体連にも、登山部の設置希望が出始めていた。

そのころ、奈良県高体連にも、まだ登山専門の組織はなく、各学校独自の登山活動の外には、奈良山岳会の主管する、年に1回の県民体育大会に参加するぐらいの学校間交流があったに過ぎなかった。

そこで、第5回国体に参加した奈良、郡山、畝傍、桜井、五條、帝塚山の6校の外2校が集まり、昭和26年6月30日、「奈良県高等学校体育連盟山岳部(現、登山部)」が創設された。初代部長 井上正文吉野高校長、委員長 戸田忠之奈良高校教諭であった。

続く同年9月15日、奈良山岳会と奈良県高体連山岳部の2団体で「奈良県山岳連盟」が組織され、会長 笹谷良造、副会長 小林順吉 戸田忠之、理事長 米田信雄(いずれも故人)が選出された。そして、山岳連盟結成記念、高見山登山を10月13日、14日の両日に、平野、杉谷の2ルートで開催した。

13日夜、低気圧が南方海上を東進、低気圧に吹き込む南東風が、高見山を越して北西斜面に吹き下ろして渦を巻く、局地的暴風雨「平野風」が平野集落に吹き荒れた。翌日、

みんなの話題となり、山岳連盟発足を盛り上げるかのような貴重な体験となった。

3 近畿ブロック組織と全国組織の結成へ

奈良県に山岳連盟ができた前後には、ほぼ全国各都道府県に山岳連盟が誕生した。それらを結集し、「全日本山岳連盟（以下、日本岳連という。）」が昭和 29 年（1954 年）に発足した。初代会長は、日本山岳会創立当時の会員、武田久吉であった。

その下部組織として「関西地区山岳連盟」（現、近畿地区山岳連盟）を同年 10 月 9 日に結成、会長職は置かず、理事長に大阪の武内重雄を選出、奈良県からは、常任理事 笹谷良造、理事 森本隆男、顧問 岸田日出男が選ばれた。

続いて同年末の 12 月 4 日には、近畿各府県の高体連から登山の関係者が大阪に集まり、「近畿高等学校体育連盟登山部」の結成を決めた。そして翌、昭和 30 年 5 月 3、4 日、近畿 2 府 4 県の生徒が六甲山に登山し、第 1 回近畿高等学校登山大会を開催した。第 2 回大会は、同年 8 月 17 から 3 日間、大台ヶ原山と大杉谷で 132 人が参加して開かれた。

次の年の昭和 31 年（1956 年）、第 3 回近畿大会を比良山で開催し、大阪を中心にまとまりを強めた近畿ブロックは、全国各都道府県の高体連に呼びかけて、10 月 28 日に代表者を大阪に集め、「全国高等学校体育連盟登山部」を発足させた。全国結集の核となった大阪から布施高校長の土屋憲三が部長に、副部長には、大阪府立大学の青木泰三と外に群馬と熊本の両県代表が選ばれた。そして、来年 8 月、大峰山と大台ヶ原山を会場とし、毎日新聞社の後援で「第 1 回全国高等学校登山大会」を開催することを決めた。

4 全日本登山体育大会の開催

第 2 回国民体育大会以来、順調に運営されてきた国体登山は、昭和 31 年の第 11 回大会（兵庫大会）になって、秋の六甲山か、それとも冬季大会に変更して氷ノ山で実施するかで会場が決まらず、日体協の承認が遅れ、中止となった。

急遽、日本岳連主催、兵庫の加盟する関西地区が主管し、大峰と大台ヶ原で国体に代わる全国大会を開催することになった。第 1 回全日本登山体育大会という登山と体育を並立させた聞き馴れない名称の大会であった。時期は、昭和 31 年 11 月 23 日の祝日前後の 4 日間と記憶している。

吉野山の金峰山寺蔵王堂前で開会式を挙行、翌朝から 3 日間、約 350 人が山上ヶ岳から弥山への縦走コース、大台ヶ原山登山コース、大台ヶ原から大杉谷への 3 コースに分かれて行動し、下山した樫原と伊勢の松阪で閉会式を行った。連日、晴天に恵まれ、弥山では霧氷の歓迎を受けた。

ただ一つ困ったことは、大台ヶ原の近鉄山の家へ、シオカラ谷から引いていた水道管が夜の低温で凍結し、設営役員に奈良県選手団も加わって、大台教会の泉とナゴヤ谷から水を運んで、飲料水と水洗便所に使用した。強力なモーターで下流から水を汲み上げている現在では、想像もできないエピソードとして、わたしの脳裏に焼け付いている。

全日本登山体育大会は、その後、ほぼ 1 年ごとに、全国各地で開催されてきたが、昭和 52 年（1977 年）の第 18 回大会が再び奈良県で開かれた。第 1 回大会と同じ時期の 11 月 20 日から 23 日までの 4 日間であった。

このときほ、大峰山の谷歩きが中心で、天ノ川上流の弥山川、モジキ谷、神童子川を登る 3 ルートに分かれて、それぞれ、弥山、稲村ヶ岳、山上ヶ岳に登頂した。下山後の洞川だけが旅館泊で、他はテント泊であった。一部の役員団は、和佐又小屋から大普賢岳に登

り、出上ヶ岳から洞川に下った。最終日、龍泉寺で真言宗の「柴燈護摩（さいとうごま）」の法要が、大会参加者のために営まれた。平素は、なかなか体験する機会の少ない密教の行事に参加できて、感激した人も多かったのではないだろうか。

5 全国高等学校登山大会の開催

全国高体連登山部が発足した翌年、昭和 32 年（1957 年）8 月 17 日から 20 日までの予定で、参加 60 チーム（男 54、女 6 チーム）300 人、そこへ総監督、監督、役員、陸上自衛隊第 3 管区（伊丹駐屯）の通信隊と衛生隊など、約 600 人が山に入った。式典を盛り上げた吹奏楽団や鼓笛隊、消防団、婦人会、開催地町村の関係者等を数えれば、さらに 200 人ぐらいの人たちの協力があつたものと思われる。

前日、吉野山に集結し、17 日は、開会式の後（A）大台ヶ原、西ノ滝と中ノ滝、黒石谷（B）大台ヶ原、大杉谷、黒石谷（C）洞川鍾乳洞、山上ヶ岳、大台ヶ原、黒石谷の 3 コース（女子は A コース）で行動し、吉野山と洞川の旅館以外は、男子は幕営、女子は山小屋泊で計画した。

ところが 17 日夜、東シナ海に抜けると見ていた台風が急に北上して沖縄本島に接近、大台ヶ原は雨となり、翌 18 日は豪雨となる。同行していただいた青木滋一奈良気象台長の意見も加え、A、B コースは山小屋に避難、谷入りは、増水で危険と判断して中止し、C コースは柏木でストップ、吉野川の増水のため学校に避難する。

19 日、雨は止んだが、日程を 1 日短縮して吉野山に下山し、夕刻、閉会式となった。A、B 両コースの大台ヶ原からの下山路は、吉野川の増水で、釜ノ公谷の下で水没していた。陸上自衛隊員が水に入ってロープを固定して確保、全員がそれにつかまり、腰まで浸かる徒渉をして無事に下山した。このときの雨量は、2 日間で 300 ミリはあつたと記憶している。バス道の一部にあつた土砂崩壊は、川上村の消防団と土木業者によって、すぐに除去できたのは、ありがたかつた。

強い南でもなかつたのに、長時間滞在を強いられた C コース、豪雨のため満足な行動ができなかつた A、B コース、それぞれに、不満は多々あつただろうが、今後の集団登山の運営に、貴重な体験を提供してくれた大会であつたと思つている。

全国高校登山大会は、この後、毎年順調に開催されてきている。その中で、昭和 39 年（1964 年）の第 8 回大会は、前年になつても開催地が現れず、また、奈良県が引き受ける羽目になつた。8 月 5 日から 9 日までの 5 日間で、吉野町に集合し、洞川に移動して開会式挙行、6、7 の 2 日間は大峰に入り（A）稲村、山上、大普賢岳コース（B）双門滝、行者還、大普賢コース（C）弥山、大普賢縦走コース（D）稲村、川迫川、大普賢コース（女子）の 4 コースを歩き、和佐又山に全員集結、キャンプファイアを囲む。8 日午前は、講演会と研究会を開き、伯母峰峠への尾根を歩き吉野山へ下山、9 日朝、閉会式を行う。洞川、吉野は旅館泊まり、山中は幕営であつた。この大会は、全国高等学校総合体育大会の一部門となつた直後の大会で NHK の後援を得て、経費の面でも充実した大会となつた。

6 日本山岳協会の設立

昭和 29 年に全日本山岳連盟が発足したとき、国体登山は、日体協に加盟していた日本山岳会が主管していた。昭和 34 年（1959 年）6 月、日本山岳会と日本岳連の両者が「日本山岳協会」を組織し、翌年 4 月 1 日に正式に発足した。そして日体協の加盟団体としてアマチュア登山の一切を統括した。国体登山も日本山岳協会の主管となる。初代会長は、

日本山岳会の武田久吉、副会長は、日本山岳会の日高信六郎、日本岳連の尾関広の2人であった。

その後、国体登山は、年齢別、男女別に競技化され、天皇杯、皇后杯の得点種目となって現在に至っている。

編者注

第1回全日本登山体育大会の開催のいきさつをとどめる記録が「兵庫県山岳連盟 30年のあゆみ」(1978年5月発行)の「30年の歴史を顧みる座談会」と題する記事の中にある。これには、当時の兵庫県山岳連盟副会長 前田 浩氏(故人)の談話として、次のように記されている。

兵庫県の31年の10月国体で山が中止になったというので、代わりに全日本登山大会をやろうということで、東京かどこかで会合があった時、今北口山スキーにいる福井県出身の松村さんが、大阪岳連のなにか世話をしている、関西でやりましょうと大見栄きって帰ってきた。関東の連中はこれを関西の代表の発言だということで、それで決めてしまった。帰ってくると、亡くなった大阪の会長の武内さんが、一言も相談せずに、北口の番頭が何事だと怒った。その年の6月に関西地区が集って断ろうということで、7月の始めに横浜の尾関さん(編者注:当時の全日本山岳連盟副会長)の家へ私が断わりに行ったのです。そしたら「一応断わりは受けた。あらためてご注文を聞いて帰って、相談してご返事します」というて帰った。そうすると結局しなければ仕方がないということで、奈良の会長笹谷良造さんが、奈良で引受けますという事で第1回の大会が大峯、大台で開かれた。たしか、11月22、23日頃だったと思うのですが、あの時は兵庫県からも、役員としてかなりの人にご苦勞をかけました。全く金がない全日本大会でした。兵庫県もその時一部かんでいたわけですが、主に奈良が中心でやりました。

(以下は関係がないので省略)

全日本登山大会、全国高等学校登山大会のプログラム表紙



奈良国体を省みて

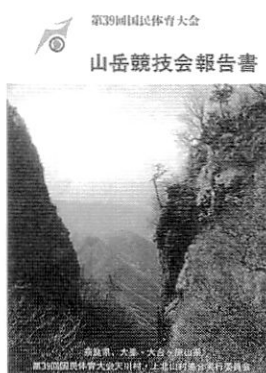
米澤 清

”ようおまいり!!” で始まった若草国体の最初の挨拶は、洞川地区全域に響き渡った。奈良国体の開催が決まって、各競技団体も、全力を尽くして優勝を目指して動き出した。我が岳連も遅れは取らじと、競技面、運営面で各役員が一丸となって行動を開始した。県との関係、市町村との関係、日山協との関係等々、かえり見ると冷や汗のかき通し、競技面では若い指導者に選手強化をお願いし、運営面では特に市町村との関わり合に神経を使い、輸送、宿泊、種目別コースの選定、荒天対策……、終了まで気を休めることができなかった。これは関係者一同、皆同じことで、来る日も、来る日も選手強化で涙を流し、運営面でも涙、涙……関係者一丸となって全種目優勝を勝ち取って又涙、涙。75年の人生の中で、国体の開催を経験し、岳連のトップとしての役割をそれなりに果たしたことは、私の人生の中で生涯忘れえぬ事柄であっただろう。

今年も宮城国体で各地区の岳連も、若草国体と同じ様に、頑張った結果に一喜一憂する事だろう。今後奈良国体が開催されるのは、40年も先の事だろうが、それを見定めて人生を終わりたいと願うのは、あまりにも欲張りが大きすぎるだろうか……。

岳連が創立されて50年。

今省り見ると、我れながらよくやって来たものだと、つくづく感心している。これからの岳連も若い人達の力を結集して、よりよき岳連に発展してほしいものと熱望している。50周年を前にして……。



50年のあゆみ

1951年 昭和26年	9月15日 10月	奈良県山岳連盟結成 会長 笹谷良造 規約20条を制定 国民体育大会登山部門(中国地区・鳥取県大山) 6名参加
1952年 昭和27年	9月 10月	県民体育大会(曾爾山系) <主管> 国民体育大会登山部門(東北・秋田県鳥海山) 4名参加
1953年 昭和28年	10月22-26日	国民体育大会山岳競技(愛媛県石鎚山) 1名参加
1954年 昭和29年	8月17日- 7月24-28日	近畿高等学校体育連盟山岳部合同登山(大台ヶ原周辺) 国民体育大会(北海道地区)
	メモ	10月9日 関西地区山岳連盟結成 (現在は近畿地区と改称されている)
	メモ	12月4日 近畿高等学校体育連盟山岳部結成
	メモ	日本山岳会隊エベレスト登頂
1955年 昭和30年	8月17日- 10月	近畿高等学校体育連盟山岳部合同登山 関西地区登山大会 国民体育大会(神奈川) 不参加
	メモ	5月15日 全日本山岳連盟結成
1956年 昭和31年	11月22-25日	第1回全日本登山体育大会(大台ヶ原)<関西地区山岳連盟主管> 参考 国民体育大会登山部門開催中止.これに代わるものとして 全日本登山体育大会が開催された
1957年 昭和32年	8月17-20日 10月26-30日	第1回全国高等学校登山大会(大台ヶ原,大峯山)<高体連共同主管> 国民体育大会(静岡) 4名出場
1958年 昭和33年		国民体育大会(富山) 高体連,奈良山岳会 丸山温行 1月2日 大峰山系で遭難死亡
1959年 昭和34年	10月25-29日	第1回県中学校登山大会<後援> 国民体育大会(東京) 全日本登山体育大会(御岳) 4名参加
1960年 昭和35年	10月	国民体育大会(熊本) 6名出場 全日本登山体育大会(群馬・尾瀬) メモ 4月1日日本山岳協会発足 全日本山岳連盟と日本山岳会で組織
1961年 昭和36年	10月8-13日 8月23-27日	国民体育大会(青森) 全日本登山体育大会(愛媛・剣山) 4名参加 4月 ワグ-雪岳会 加盟承認(その後寧楽白峰会に改称)
1962年 昭和37年	10月21-26日	国民体育大会(岡山) 6名出場 全日本登山体育大会(北海道・ニベツ山)
1963年 昭和38年	10月27-31日 7月20-23日	国民体育大会(山口) 7名出場 全日本登山体育大会(新潟・魚沼三山,荒沢岳)
1964年 昭和39年	4月29-5月2日 6月6-11日 8月5-9日 11月7-8日	全日本登山体育大会(岩手県岩手山,八幡平) 5名参加 国民体育大会(新潟) 7名出場 第8回全国高等学校登山大会(天峯山系)<高体連主管,山岳連盟後援> 第1回関西地区登山大会(滋賀県比良山系) 36名参加

1965年 昭和40年	3月13-16日	全日本登山体育大会(兵庫県但馬山地)	4名参加
	6月5-6日	県民体育大会(吉野三山)〈主管〉	
	7月24-26日	夏山教室(大峯山系) 〈主管〉	
	8月15-17日	大台ヶ原集中登山(沢登り研修) 東の川, 小椽川左, 右叉, 黒石谷 5団体	
	9月19-23日	国民体育大会(岐阜) 一般4名, 高校4名	高校:優秀県表彰
	10月23-24日	第2回関西地区登山大会(和歌山)	
1966年 昭和41年	6月4-7日	全日本登山体育大会(石川県白山) 和田他3名	
	10月1-2日	第3回関西地区登山体育大会(台高山系)〈主管〉 奈良県自然に親しむ会	
	10月23-28日	国民体育大会(大分) 一般4名, 高校4名出場	
1967年 昭和42年	11月11-12日	第4回関西地区登山大会(京都府北山) 岩本他	
	10月23-27日	国民体育大会(埼玉) 一般4名, 高校4名出場	
1968年 昭和43年	10月1-6日	国民体育大会(福井) 一般4名 高校4名	一般:優秀県表彰
		3月 県スポーツ賞受賞 福井国体一般監督, 選手4名	
	メモ	5月25日 日本山岳協会が社団法人になる	
1969年 昭和44年	5月11日	総会(奈良・猿沢荘)	
	8月2日	関西地区遭難対策研修会打合会(奈良・電電会館)	
	9月1日	関西地区遭難対策研修会打合会	
	11月9日	遭難対策委員会(青少年野外活動センター)	
	10月18-19日	県民体育大会(大普賢岳)	
	10月26-30日	国民体育大会(長崎) 一般4名, 高校4名出場 初代会長笹谷良造 2月25日逝去, 廣瀬敏雄 6月逝去	
1970年 昭和45年	6月20日	総会(会長宅)	
	7月25-26日	自然に親しむ大会	
	6月27-28日	国体(岩手) 選手予選会(吐山青少年野外活動センター)	
	10月11-15日	国民体育大会(岩手) 一般4名, 高校4名出場	
	10月24-25日	県民体育大会(黒滝村扇形山)	
	11月27日	関西地区遭難対策委員会(大阪・多賀)	
	11月27日	奈良県山岳遭難対策本部理事会(奈良市やまと) 倭山岳会 新規加盟(総会において承認)	
	メモ	万国博覧会(大阪千里山)開催	
1971年 昭和46年	1月23-24日	関西地区遭難対策協議会	
	2月26日	奈良県山岳遭難対策本部救助訓練(野外活動センター)	
	4月1日	関西地区役員会(江泉)	
	5月22日	全日本山岳連盟評議員会(東京・岸記念体育会館) 米澤	
	5月23日	全日本山岳連盟通常総会(東京・岸記念体育会館) 米澤	
	5月30日	総会	
	6月26-27日	国体予選 台高山系国見岳周辺	
	8月7日	関西地区役員会(神戸登山研修所)	
	9月28日	関西地区遭難対策打合会(神戸登山研修)	
	10月24-29日	国民体育大会(和歌山) 一般4名, 高校4名出場 山岳連盟創立20周年記念式典	

1972年	1月9-10日	関西地区遭難対策協議会	米澤, 巽, 遠藤, 竹村, 津川
昭和47年	11月19日	奈良県遭難対策幹事会	(県公安委員長室)
	3月25日	大台ヶ原山開き打合会	(県婦人会館)
	3月3日	奈良県体育連盟評議会	(菊水楼) 米澤
	10月22-27日	国民体育大会	(鹿児島)
		関西地区登山大会	<主管>
1973年	2月7日	日山協評議委員会	(東京) 1名
昭和48年	3月3-4日	近畿地区審判会議	(滋賀山岳センター) 3名
	10月14-18日	国民体育大会	(千葉) 成年4名, 少年4名出場
1974年	10月20-25日	国民体育大会	(茨城) 成年4名, 少年4名出場
昭和49年			
1975年	10月26-31日	国民体育大会	(三重) 成年4名, 少年4名出場
昭和50年			
1976年	1月14日	奈良県の国体開催が日体協で正式決定	
昭和51年	4月11日	51年度総会	(県労働会館) 15団体出席
	4月24-25日	国体審判員研修会	(茅野市) 1名参加
	5月3-4日	馬酔木登山会	西田遺体収容(穂高滝谷出合)
	5月23日	大台ヶ原山開き	[後援] 5名参加
	5月23日	日本山岳協会総会	(東京) 1名出席
	6月13日	全日本登山体育大会実行委員会	(樫原公苑) 13団体
	7月17日	国体県予選会	(音羽山) 17名参加
	7月24-25日	近畿地区審判員養成研修会	(大阪) 6名参加
	7月24-26日	市民登山実技講習会	(前鬼) 2名
	9月4-5日	国体近畿地区予選会	(兵庫) 9名参加
	10月17-18日	県民体育大会	(和佐又山) 11団体参加
	10月24-29日	国民体育大会	(佐賀) 7名参加
	11月14日	2種指導員検定会	(県野外活動センター) 19名参加
	12月4-5日	関西地区指導員研修会	(神戸登山研修所) 8名参加
	12月18日	山岳連盟納山会	(鳥見山) 13名参加
	12月19日	市民登山教室・映画の会	(県商工組合会館) 25名参加
		これらの他に全日本体育大会実施の為の会議を4回開催	
1977年	1月23日	指導員研修会・2種指導員検定会	(山上ヶ岳) 8団体参加
昭和52年	2月2日	県警山岳遭難対策指導者講習会	(県野外活動センター) 9名参加
	3月5-6日	関西地区登山大会	(兵庫・氷ノ山) 4団体参加
	3月13日	総会	(しらゆり荘)
	6月12日	全日本登山大会打ち合わせ会議	(猿沢荘)
	10月2-7日	国民体育大会	(青森)
	10月29日	全日本登山大会打ち合わせ会議	(奈良労働会館)
	11月20-23日	第18回全日本登山体育大会	(大峰山系) <主管>
1978年	4月23日	総会	(樫原公苑) 16名
昭和53年	7月1-2日	関西地区総合研修会	(神戸) 5名
	8月19-20日	関西地区国体予選	(奈良・吉野山) 21名
	9月9-10日	岩登り講習会	(大台ヶ原) 42名

1978年	10月14-20日	国民体育大会(長野)	12名
昭和53年	10月28-29日	県民体育大会、2種指導員検定会(和佐又山)	65名
	11月19日	遭難救助訓練(野外活動センター)	19名
	12月23-24日	納山会(奈良フィールドアスレチックセンター)	21名
	1979年	1月25日	県警遭難救助訓練(野外活動センター)
昭和54年	1月28日	技術研修会(曾爾・紅ヶ岳)	
	2月9-12日	冬山講習会(八ヶ岳)	17名
	2月24-25日	2種指導員検定会(山上ヶ岳)	7名
	4月12日	54年度総会(飛火野荘)	
	5月24日	山岳連盟国体委員会(飛火野荘)	
	6月3日	岩登り研修会(紅ヶ岳)〈主催〉	25名
	6月16-17日	国体選手県予選(俱留尊山) 選手=14チーム	
	8月5-6日	国体関西地区予選(和歌山・生石高原)	
	8月17-18日	国体関西ブロック予選(和歌山)	
	8月27日	シャープ 山岳部事故に係る情報の提供を全国の山岳連盟に依頼	
	8月26日	2種指導員検定会(山上ヶ岳)〈主催〉	
	9月8-9日	沢登り講習会(大峯・上多古谷)〈主催〉	22名
	9月22日	奈良国体開催村との打ち合わせ会議(県労働会館)	
	10月14-20日	国民体育大会(宮崎県)	
	10月27-28日	県民体育大会(洞川)〈主管〉	30名
	11月24-25日	審判員研修会(兵庫)	
	12月16日	関西地区自然保護委員会(京都・嵐山)	1名
	12月20日	奈良国体山岳競技会場地 天川, 上北山村に内定	
	12月22日	山岳連盟納山会(桜井・白山)	
		8月上旬 シャープ 奈良山岳部 中川弘一, 剣岳で遭難行方不明	
1980年 昭和55年	1月12日	山岳連盟国体委員会(飛火野荘)	
	1月29日	県警遭難救助訓練(県野外活動センター)	指導員15名派遣
	2月10-12日	冬山集中登山(中央アス・宝剣岳) 〈主催〉	21名
	3月2日	2種指導員検定会(山上ヶ岳)〈主催〉	受験者5名
	5月26-27日	奈良国体中央団体正規視察(天川村)	坂口, 米澤, 山口
	6月1日	55年度総会(飛火野荘)	23名
	6月21-22日	国体県予選(俱留尊山) 選手61名 役員20名	
	7月20日	関西地区国体予選打合会(京都) 笠野, 梅屋	
	8月10日	日山協臨時国体委員会(東京) 米澤	
	8月23-24日	関西地区国体予選(京都)	
	9月13-14日	近畿高校登山大会(大峯山系)〈高体連主管, 山岳連盟後援〉	
	10月12-18日	国民体育大会(栃木)	
	10月25-26日	県民体育大会(巻向山周辺) 選手17名	
	10月25-26日	2種指導員検定会(巻向山)	9名
	11月29-30日	関西地区審判員研修会(神戸)	12名参加
12月9日	県体協評議員会 米澤		
	わかぐさ国体準備委員会発足, 年間にわたって奈良国体縦走, 踏査コース調査を7回, 20日間, 26名により天川, 上北山村で実施		

1981年 昭和56年	1月28日	県警山岳遭難救助訓練(県野外活動センター)	12名
	2月1日	日山協国体委員会(東京)	
	2月22日	日山協評議員会(東京)	笠野
	2月22日	県体協評議員会(奈良)	米澤
	4月26日	総会(奈良市・飛火野荘)	
	6月4-7日	21回全日本登山体育大会(大分県・くじゅう山系)	4名
	6月20-21日	国体奈良県予選(曾爾村・俱留尊山)	選手68名
	8月5日	国体先催県の業務研修(滋賀県)	10名
		国体近畿地区予選(兵庫・六甲山)	
	10月25日	32回県民体育大会(天理市・大国見山)	
	10月12-17日	国民体育大会(滋賀)	成男31位
	10月12-17日	国民体育大会(滋賀)	視察団派遣 14名
	10月25日	県民体育大会(天理・大国見)	
	11月8日	第2種指導員検定会(天川村)	17名受検
わかくさ国体委員会, および選手強化委員会が発足 新規加盟 明日香山岳部 代表者:辰己恵規 (7月14日承認)			
1982年 昭和57年	4月18日	総会(奈良市・やまと)	
	4月25日	国体選手1次(縦走)予選会(二上, 葛城山)	
	5月16日	国体選手2次(登はん)予選会(天川村・地の峯岩場)	
	1月25日	県警遭難対策救助訓練(曾爾村・紅ヶ岳)講師派遣	
	10月3-8日	国民体育大会(島根)	視察団派遣
	11月14日	日山協臨時総会, 臨時理事会(東京)	山口
	11月14日	日山協臨時評議員会(東京)	笠野
11月26日	わかくさ国体実行委員会総会 わかくさ国体:6-7月に詳細なコース調査を実施, 競技役員養成開始 選手強化開始. 大日公一, 天川村実行委員会へ'84年まで出向.		
1983年 昭和58年	4月1日	日山協国体委員総会(東京)	米澤
	4月24日	総会(奈良市・やまと)	
	5月22日	日山協通常総会, 理事会(東京)	山口
	6月10日	総会(奈良・飛火野荘)	
	7月2日	39回国体成績計算委員合同会議(県農協会館)	
	7月9日	わかくさ国体天川村実行委員会総会(天川村)	1名
	7月10日	県民体育大会<主管>(音羽山)	選手36名
	8月6-7日	国体近畿地区大会(曾爾村・国見, 住塚山, 小太郎岩)	
	9月3-4日	国体施設認定中央視察(天川, 上北山村)	5名
	10月13-21日	あかぎ国体視察	
	11月2日	日山協臨時理事会(東京)	1名
	11月24日	国体山岳競技引継式(天川村)	1名
	12月3-4日	近畿ブロック審判員研修会(兵庫)	
	12月23日	わかくさ国体開催300日前候補選手激励会(橿原文化会館) 奈良大学山岳部 山岳部解散に伴い脱会(6月23日)	
1984年 昭和59年	4月28-30日	奈良国体リハーサル大会(天川, 上北山村)	全役員, 支援隊参加
	5月13日	国体県予選(天川村・地の峯岩場)	

1984年	5月20日	和佐又山祭り
昭和59年	5月20日	日本山岳協会総会, 理事会(東京) 山口
	5月26-27日	国体開催県審判員研修会(天川村) 全審判員参加
	5月31日	県主催100日前パレード(奈良市)
	6月10日	59年度総会(飛火野荘) 15名出席
	6月13-18日	国体運営各部実行委員会打合せ(橿原市・民宿あかね)
	6月24日	国体運営研修会(郡山高校)
	6月25日	国体競技運営連絡調整会議(奈良市・農協会館)
	7月21-22日	県民体育大会(天川村・観音峯)
	8月17日	国体組み合わせ抽選会打ち合わせ(県国体事務局)
	8月25-26日	近畿地区国体予選会(滋賀県・比良山系)
	8月27日	国体支援, 自衛隊打ち合わせ(県国体事務局)
	9月1日	奈良国体選手激励会(春日野荘)
	9月21日	国体組み合わせ抽選会(東京)
	9月22-24日	全日本登山体育大会(高知県) 米澤
	9月25日	奈良国体選手激励会, 県主催(橿原・体育館)
	9月30日	国体運営役員研修会(郡山高校)
	10月12-17日	第39回国民体育大会秋季大会[わかくさ国体](天川, 上北山村)
	11月9日	鳥取国体事務引継会(鳥取県関金町)
		この他に年間におたつて国体関係の打ち合わせ, 諸会議, 調査が行われた
1985年	1月5日	奈良国体反省会(飛鳥荘)〈主催〉 全役員, 全選手, 実行委員会出席
昭和60年	2月15日	県警遭難対策救助訓練(県野外活動センター) 指導員8名参加
	2月17日	日山協評議委員会(東京)
	4月14日	日本山岳協会国体委員総会(東京) 山口
	5月24日	県体協評議委員会(春日野荘) 米澤
	5月26日	日本山岳協会総会(東京) 米澤
	6月7-9日	鳥取国体リハーサル大会(鳥取) 梅屋, 山口
	6月16日	近畿地区ミニ国体審判員研修会(大阪・河内長野) 中島, 山口
	6月23日	総会(やまと)
	6月30日	国体県内1次予選(曾爾・小太郎岩)
	7月21日	県民体育大会(和佐又山周辺)〈主管〉
	7月27-28日	国体近畿ブロック大会(大阪・河内長野) 成女, 少男, 少女1位
	7月28日	近畿地区役員会(大阪・河内長野) 山口
	10月20-25日	国民体育大会(鳥取) 総合 成男15位 少男7位 成女4位 少女6位
	12月21日	県100年記念事業打ち合わせ会(県庁)〈県主催〉 米澤, 山口
		第3代会長 坂口圭正 1月3日逝去
		3月23日 県教育委員会スポーツ賞受賞 わかくさ国体監督, 選手16名
1986年	2月16日	日本山岳協会評議委員会(東京) 山口
昭和61年	4月13日	日本山岳協会国体委員会委員総会(東京)
	5月9日	選手強化ヒヤリング (県庁) (強化担当)
	5月22日	近畿地区審判員委員会(京都) (迫田, 井岡)

1986年	5月26日	日本山岳協会総会(東京) (米沢)	
昭和61年	6月22日	総会 (櫃原公苑)	6団体
	7月11日	県体協加盟団体理事長会議	
	7月12-13日	近畿地区審判員研修会(京都)	
	7月23-24日	自然公園大会(滋賀) 視察=笠野	
	7月26-27日	国体近畿地区大会 成女3位, 少男3位, 少女1位	
	9月13-14日	近畿高等学校登山大会(大台ヶ原山系) <高体連主管>	
	10月12-17日	国民体育大会(山梨) 成男 位 少女 位	
	11月14-15日	関西7ブロック海外登山報告会(大阪・大阪工大)	
	11月17日	県警遭難対策訓練=講師派遣(吐山)	
		新規加盟 大和高田市スキー山岳部 代表者:福西英俊	
		県体協奨励賞受賞 成女, 少男, 少女 12名 (3月16日)	
1987年	2月16日	日本山岳協会評議員会(東京)	
昭和62年	3月7-8日	近畿地区審判員研修会(和歌山)	
	4月13日	日本山岳協会国体委員総会(東京)	
	6月22日	近畿地区国体審判員委員会(京都) 迫田, 井岡	
	6月22日	総会(櫃原公苑)	
	7月3日	第29回自然公園大会打合せ(奈良) 米沢	
	7月12-13日	近畿地区審判員研修会(京都)	
	7月20日	県体(音羽山) <主管>荒天のため中止	
	7月23-24日	自然公園大会(滋賀県) 笠野視察	
	7月25-26日	国体近畿地区大会(兵庫) 成女 3位 少男 3位 少女 1位	
	11月10日	山岳遭難対策本部打合せ(奈良)米沢	
	11月6日	県警遭難対策訓練(県野外活動センター)	7名
	11月28-29日	2種指導員検定会(天川村・大峰山およびオキギリ岩)	
		青少年登山教室	
		国民体育大会(沖縄)は山岳競技が中止, 地区大会を実施	
1988年	1月23-24日	冬山登山教室(大普賢岳)<主催>	15名
昭和63年	2月14日	日本山岳協会評議員会(東京)	
	2月20-21日	近畿地区審判員研修会(奈良・信貴山)<主管>	奈良は9名参加
	5月27日	昭和63年度総会(櫃原公苑)	
	7月10日	奈良県20世紀の集い(櫃原公苑)	
	7月16-17日	奈良県民体育大会(明神平・アザミ岳)<主管>	14名
	7月30-31日	自然に親しむ大会(津風呂湖畔)<県主催>	2名
	8月6-7日	自然教室(和佐又山)	1名
	8月10-13日	バックパッキング(奈良県委託事業)(高見山, 三峰山)<県主催>	指導者17名 小中学生43名参加
	8月27-28日	国体近畿地区大会(和歌山) 成女2位, 少男1位, 少女2位	
	9月3-4日	県山岳連盟合同山行(奥香肌峽)	15名
	10月15-20日	国民体育大会(京都) 成男18位, 成女10位, 少男5位	
	11月20日	日本山岳協会臨時総会(東京)	1名
	11月25日	日本山岳協会自然保護委員会(大阪)	1名

1988年 昭和63年	11月25日	山岳遭難対策打合せ会（春日野荘）	1名
	12月3日	山岳連盟忘年会（小太郎ヒュッテ）	8名
	12月9日	県遭難対策指導（野外活動センター） 指導者7名派遣	
1989年 平成元年	2月7日	日本山岳協会評議委員会（東京）	1名
	3月3-4日	近畿地区審判会議（滋賀山岳センター）	3名
	5月28日	総会（樞原公苑）	
	5月28日	連盟総会（樞原公苑）	
	6月17-18日	国体近畿地区大会審判会議（天川村）	
	7月9日	県民体育大会・国体県予選（天川村） 雨のため中止	
	7月29-30日	国体近畿ブロック大会（天川村）〈主管〉 少男1位 少女1位	
	9月16-21日	第44回国民体育大会（北海道） 成男:20位, 少男:10位, 少女:10位	
	10月14-15日	奈良県自然教室（大台ヶ原）	1名
		6月上旬～11月上旬 大台ヶ原清掃山行 県体協奨励賞受賞 少女4名（3月末）	
1990年 平成2年	1月10日	県警遭難対策訓練の指導（野外活動センター） 指導者6名	
	2月8日	日山協評議員会（東京）	1名
	2月23-24日	合同山行（大普賢岳）	
	5月13日	第13回奈良県自然教室（吉野）	1名
	5月19日	日山協30周年記念式典（東京）	3名
	6月3日	奈良県山岳連盟総会（樞原公苑）	
	7月8日	県民体育大会（音羽山）〈主管〉	26名
	8月25-26日	国体近畿ブロック大会（滋賀県） 成女4位 少男4位 少女3位	
	10月21-26日	国民体育大会（福岡） 成男:17位	
	7月-11月	大台ヶ原清掃 7団体 65名 新規加盟団体承認 青垣の山脈を歩く会 代表:米澤清	
1991年 平成3年	1月24日	40周年実行委員会（樞原）	
	2月21日	40周年実行委員会（樞原）	
	3月28日	40周年実行委員会（樞原）	
	3月30-31日	近畿地区審判研修（大阪） 2名	
	4月14日	日本山岳協会国体委員総会（東京）	1名
	5月12日	日本山岳協会総会（東京）	1名
	5月26日	国体県予選	42名
	5月29日	県体協評議員会	2名
	6月2日	総会（樞原）	
	7月7日	県民体育大会（吉野山）〈主管〉	40名
	7月18-19日	中高年指導者研修会（立山）	1名
	8月24-25日	国体近畿ブロック大会（大阪） 成女2位 少男4位 少女3位	
	10月12-17日	国民体育大会（石川） 成男:13位 成女:14位	
11月3-4日	創立40周年記念40座秋期集中登山		
11月9-10日	全国自然保護委員会（滋賀県）	1名	
	大台ヶ原清掃 年間を通じ56名参加		
1992年 平成4年	1月18-19日	県内40座冬期集中登山〈創立40周年記念事業〉	47名
	2月9日	創立40周年記念式典（奈良新公会堂）	100名

1992年 平成4年	3月28-29日	奈良クライミングカップ'92<創立40周年記念事業>(奈良市)	
	5月17日	大台ヶ原山祭り(大台ヶ原) <後援>	5名
	5月30日	国体山岳競技県予選 成年の部 少年の部(桜井)	52名
	5月30日	総会・創立40周年記念事業委員会(桜井・吉野寿司)	
	5月8日	大台ヶ原ビジタハウス開き(大台ヶ原) <後援>	1名
	7月5日	県民体育大会(御所市) 沢登り<主管>	35名
	7月25-26日	国体山岳競技近畿地区ブロック大会(京都・北山)	
	10月5-8日	国民体育大会(山形) 成男:15位, 成女:12位, 少男:15位	
	10月7-11日	ワールドカップ神戸(神戸)	1名
	10月24-25日	自然教室(洞川) <県主催>	1名
	10月31日-11月2日	全日本登山大会(和歌山)	41名
	11月14-15日	近畿地区自然保護委員会(和佐又山) <主管> (大台清掃山行中止)	25名
1993年 平成5年	2月14日	日本山岳協会評議員会(東京)	1名
	2月27-28日	近畿地区審判研修会(和歌山)	2名
	3月14日	市民開放登山(三重県・錫杖岳)	105名
	6月6日	高体連インターハイ予選	
	5月29日	国体選手県予選会(音羽山)	
	6月20日	総会(樫原公苑)	
	7月4日	県民体育大会(東吉野・薊岳周辺)	
	7月24-25日	国体近畿ブロック大会(兵庫)	
9月11-12日	沢登り研修会(伯母子山系小黒谷)		
10月24-28日	国民体育大会(東四国・徳島)		
1994年 平成6年	2月26-27日	近畿地区審判研修会(奈良・天理)	奈良関係者10名
	6月4日	国体奈良県予選会(桜井音羽山)	32名
	6月5日	山岳連盟総会(奈良県社会福祉センター)	
	6月11-12日	近畿地区自然保蔵適格協議会(京都北山)	1名
	6月11-12日	国体近畿ブロック審判員会議(和歌山)	2名
	7月2-3日	県民体育大会(大台ヶ原) <主管>	9名
	7月15日	奈良県体育協会理事会(春日野荘)	1名
	7月17日	大台ヶ原清掃登山(奈良山岳会)	7名
	7月23-24日	国体近畿ブロック大会(和歌山・生石高原)	18名
	8月16日	大台ヶ原清掃登山(高体連桜井高校)	10名
	8月28日	大台ヶ原クリーンキャンペーン(大台ヶ原)	3名
	9月11日	沢登り交流会(大台ヶ原堂倉谷) <主催>	17名
	9月18日	大台ヶ原清掃登山(奈良岳志会)	4名
	9月19-21日	中高年安全登山講習会(北アルプス爺ヶ岳)	1名
	9月23-25日	全日本登山体育大会(北アルプス立山~劔岳)	2名
	10月16日	大台ヶ原清掃登山(樫原山岳会)	5名
	10月29日-11月2日	国民体育大会(愛知) 成男:4位 少女:15位	
	11月3日	大台ヶ原清掃登山(よろづ相談所病院山岳会)	7名

1994年 平成6年	11月27日	C級指導員資格移行講習会(天理)	54名
	11月29日	わかくさ国体10周年記念(ロイヤルホテル)〈県主催〉	6名
	12月17-18日	一般の行方不明者について捜索協力(弥山)	17名
1995年 平成7年	2月25-26日	平成6年度審判研修会(滋賀県山岳センター)	2名
	3月26日	一般開放登山(榛原・額井岳)〈主催〉	47名
	4月8日	韓国・日本岳人親善交流会(大阪)	1名
	5月20日	総会(桜井市立中央公民館)	14名
	5月21日	日本山岳協会総会(東京岸記念体育会館)	1名
	5月27日	国体奈良県予選会(桜井市音羽山)	40名
	5月29日	大台ヶ原清掃登山(青垣の山脈を歩く会)	11名
	6月1日	県体協評議員会(ロイヤルホテル)	1名
	6月3-4日	国体近畿ブロック大会審判会議(滋賀県)	2名
	6月3-4日	インターハイ奈良県予選会(和佐又山)	
	7月1-2日	日山協遭難対策研究会議(大阪・大阪工大)	1名
	7月2日	県民体育大会(川上村上谷)〈主管〉	
	7月22-23日	国体近畿ブロック大会(滋賀県比良山系) 少男3位 少女3位	
	8月27日	クリーンキャンペーン(大台ヶ原)	3名
	9月6-8日	中高年安全登山指導者講習会(愛知県鳳来町)	2名
	9月16-17日	近畿高校登山大会(和佐又山周辺)〈高体連主管 山岳連盟後援〉 40チーム200人役員50人	
	9月17日	大台ヶ原清掃登山(天理よろづ相談所病院山岳会)	15名
	10月1日	スポレクならスポーツライミング	役員12名
	10月7-8日	県総合体育大会山岳の部	
	10月14-18日	国民体育大会(福島) 成年男子出場	
10月21-22日	沢登り交流会兼行方不明者(一般者)捜索活動(弥山周辺)		
10月28日	大台ヶ原清掃登山(櫃原山岳会)	8名	
11月3-5日	全日本登山体育大会(香川県・小豆島)	2名	
11月11-12日	近畿地区自然保護委員会(滋賀県・沖ノ島)	3名	
1996年 平成8年	1月25日	オオヤマレンゲの保護要望書 県風致保全課に提出	
	1月24-25日	近畿地区審判員研修会(滋賀県・山岳センター)	2名
	3月9日	奈良県トレーニングセミナー(社会福祉総合センター)	
	3月16日	市民登山会 コース調査	2名
	3月24日	市民登山会(榛原-鳥見山-初瀬ダム-長谷寺)〈主催〉	参加者74名 役員7名 計80名
	5月12日	近畿ブロック大会現地調査(天理市)	4名
	5月18-19日	近畿ブロック審判会議(河内長野市)	2名
	5月25日	大台ヶ原清掃登山(青垣を歩く会)	11名
	5月26日	総会(櫃原公苑会議室)	12名
	6月8日	国体奈良県予選会(桜井市音羽山周辺)	40名
	6月29日	近畿ブロック大会現地調査(天理市)	3名
	7月6日	近畿ブロック大会現地調査(天理市)	4名
	7月7日	県民体育大会(吉野郡川上村)〈主管〉	10名
	7月20-21日	国体近畿ブロック大会(河内長野)	13名

1996年 平成8年	8月25日	大台ヶ原クリーンキャンペーン	4名
	9月8日	沢登り交流会（大台ヶ原中ノ滝他）〈主催〉	9名
	9月14-16日	全日本登山大会（鳥海山）	2名
	9月29日	大台ヶ原清掃登山（岳志山岳会）	6名
	10月12-16日	国民体育大会（広島）成男：総合35位	
	10月12日	大台ヶ原清掃登山（高体連）	8名
	10月19日	クライミング講習会（高体連）	13名
	10月26日	大台ヶ原清掃登山（樫原山岳会）	8名
	11月17日	大台ヶ原清掃登山（天理よろづ相談所病院山岳会）	22名
	1997年 平成9年	1月16日	役員会兼新年会（会長宅）
2月22-23日		近畿地区審判員研修会（天理市内本芝詰所）〈主管〉	31名
3月3日		近畿ブロック大会コース下見	3名
3月30日		市民登山会（天理一龍王山一長鳥寺）〈主催〉	44名
4月6日		日本山岳協会国体委員総会（東京岸記念体育会館）	1名
5月6-10日		近畿ブロック大会打ち合わせ、会場調査、コース整備（天理市）	
5月25日		日本山岳協会総会（東京岸記念体育会館）	1名
5月7-18日		近畿ブロック大会審判員会議（天理市内）	
5月26日		大台ヶ原清掃登山（青垣の山脈を歩く会）	10名
5月31日		国体奈良県予選会（天理市内）〈主催〉	
6月7-8日		インターハイ奈良県予選（曾爾高原）	
7月8日		奈良県山岳連盟総会（天理市内）	12名
6月12, 19日		近畿ブロック事前会議（樫原公苑会議室）	
6月23日		近畿ブロック事前会議（奈良商業高校）	8名
7月8~10日		全国遭難対策協議会（仙台）	3名
7月13日		県民体育大会 荒天により競技中止（天理市内）	20名
7月22, 25日		近畿ブロック大会下車刈り（天理市内）	3名
7月26-27日		近畿ブロック大会（26日は台風のため競技中止）〈主管〉	80名
9月13日		桜井市ソバピクニック講師派遣（大和高原）藤本	
9月13-14日		近畿高等学杖登山大会（兵庫県氷ノ山）	
9月28日		大台ヶ原清掃登山（奈良岳志会）	11名
10月5日		スポーツフリークライミング交流会（天理市内）〈主催〉	30名
10月25-29日		国民体育大会（大阪）成年男子	
11月1日		大台ヶ原清掃登山（樫原山岳会）	8名
11月2日		大台ヶ原清掃登山（よろづ相談所山岳会）	8名
11月9日		高校スポーツクライミング講習会兼競技会（天理市内）	
11月16日		高校スポーツクライミング近畿大会（大阪）	
12月13-14日	近畿地区審判員研修会（滋賀県）	2名	
1998年 平成10年	1月14日	役員会兼新年会（樫原市内）	10名
	2月5日	全国遭難対策事前打ち合わせ会議（春日野荘）	3名
	2月18日	全国遭難対策事前打ち合わせ会議（奈良文化会館）	5名
	2月22日	日本山岳協会評議員会（東京岸記念体育会館）	1名
	2月27日	奈良県遭難対策連絡会議（奈良県庁）	2名
	3月7日	奈良トレーニングセミナー'98（春日野荘）	2名

1998年	3月-8日	近畿自然保護委員会（和歌山県）	1名
平成10年	3月20-25日	高校春山スキー講習会（長野戸狩）	
	3月29日	市民登山会（吉野郡川上村白屋岳）〈主催〉	50名
	4月5日	日本山岳協会国体委員総会（東京岸記念体育会館）	1名
	5月24日	大台ヶ原山開き〈後援〉	1名
	5月24日	日本山岳協会総会（東京岸記念体育会館）	1名
	5月29日	奈良県体育協会評議員会（奈良市 春日野荘）	1名
	6月7日	総会（奈良市 春日野荘）	
	6月17日	全国遭難対策事前会議（奈良市 春日野荘）	4名
	6月28日	県民体育大会開会式	1名
	7月4-5日	県民体育大会弥山周辺 〈主管〉	24名
	7月9-10日	全国遭難対策協議会（奈良市）〈共催〉	16名
	7月10-12日	全日本登山体育大会（北海道大雪山系）	2名
	7月25-26日	国体近畿ブロック大会（京都府） 少男3位 少女4位	
	9月9-11日	中高年安全登山指導者講習会（静岡県）	2名
	10月24-28日	国民体育大会（神奈川） 成年男子：総合26位	
	11月29日	クライミング交流会（天理市）〈主催〉	
		第2代会長 小林順吉 98.12.8 逝去	
		6月7日総会において規約一部改正（第22条2項年会費を10,000円、ただし中体連は5,000円に改正）	
1999年	1月12日	新年会（奈良市 割烹吉野）	13名
平成11年	1月24日	B級指導員移行講習会（奈良市青少年会館）	11名
	1月26-31日	A級指導員受講講習会（神奈川県）	3名
	2月6-7日	近畿地区自然保護連絡協議会（奈良市飛火野荘）〈主管〉	26名
	2月14日	日本山岳協会評議員会（東京岸記念体育会館）	1名
	3月28日	市民登山会（三重県錫杖ヶ岳）〈主催〉	47名
	4月4日	日本山岳協会国体委員会総会（東京岸記念体育会館）	1名
	4月24日	国体奈良県予選会（高取山）	
	4月29日	奈良県民体育大会開会式（橿原公苑体育館）	7名
	5月15日	近畿自然保護委員会総会（京都府）	1名
	5月23日	日本山岳協会総会（東京岸記念体育会館）	1名
	5月23日	大台ヶ原山開き 〈後援〉	2名
	5月23日	大台ヶ原山清掃登山（青垣の山脈を歩く会）	
	6月6日	総会（春日野荘）	
	6月12-13日	国体近畿ブロック大会審判会議（京都）	2名
	7月11日	県民体育大会（天理よろづ相談所保健組合体育館）〈主管〉	24名
	7月24-25日	国体近畿ブロック大会（神戸六甲山系） 少男 2位 少女 3位	
	9月26日	大台ヶ原山清掃登山（奈良岳志会）	18名
	10月1-3日	中高年安全登山指導者講習会（和歌山県）	2名
	10月23-27日	国民体育大会（熊本） 成年男子：総合36位	
	11月3日	大台ヶ原山清掃登山（天理よろづ相談所山岳会）	7名
	11月3日	大台ヶ原山清掃登山（天理よろづ相談所山岳会）	7名
	11月6日	大台ヶ原山清掃登山（橿原山岳会）	6名

1999年 平成11年	12月11-12日	近畿地区審判員研修会 (和歌山県) 副会長笠野卓夫 99.3.5逝去	4名
2000年 平成12年	1月18日	新年会 (奈良市大宮町)	10名
	3月26日	市民登山会 (天理市国見岳)〈主催〉	52名
	4月9日	日山協国体委員会総会 (東京岸記念体育会館)	1名
	5月20日	岳連50周年記念実行委鼻会発足会 (春日野荘)	15名
	6月4日	総会 (橿原公苑)	
	6月10-11日	国体近戦ブロック大会審判会議 (和歌山県)	2名
	6月17日	国体奈良県予選会 (高取山)	
	7月1日	県民体育大会開会式 (橿原公苑競技場)	4名
	7月1日	岳連50周年記念実行委員会 (春日野荘)	15名
	7月8-9日	県民体育大会 (和佐又山周辺)	15名
	7月28日	岳連50周年記念実行委員会兼役員会 (橿原公苑会議室)	
	7月29-30日	国体近畿ブロック大会 (和歌山県) 生石高原	
	8月28日	岳連50周年記念実行委員会 (橿原公苑会議室)	7名
	8月20-24日	インターハイ登山大会 (笠ガ岳～檜ヶ岳周辺)	
	9月9-10日	高校近畿登山大会 (伊吹山) 男子畝傍高校3位 女子も参加	
	9月23日	高校総体 (奈良市田原地区) 男子28名女子12名	40名
	10月7日	奈良県高校クライミング大会 (和歌山県)	20名
	10月13-18日	国民体育大会 (富山) 成年男子:総合37位	
	10月21-22日	近畿地区自然保保護委員会 (神戸市)	1名
	11月7日	岳連50周年記念実行委員会 (橿原公苑会議室)	9名
	11月19日	日山協理事会 (東京)	1名
	12月2-3日	近戦地区山岳連盟総合会議 (滋架県)	4名
	12月19日	岳連50周年記念実行委員会 (春日野荘)	
2001年 平成13年	1月16日	新年会 (奈良)	8名
	2月3-4日	日山協地区審判員研修会 (天理市) 〈主管〉	24名
	2月10日	日山協評議員会 (東京)	1名
	3月25日	市民登山会 (青根ヶ峰～宮滝) 〈主催〉	
	3月25日	日山協理事会 (東京)	1名
	4月20日	国体近畿ブロック大会奈良大会実行委員会発足	
	5月20日	大台ヶ原山祭り〈共催〉	1名
	5月27日	日山協総会 (東京)	1名
	6月3日	山岳連盟総会	
	6月8-10日	インターハイ奈良予選 兼国体1次予選 (吉野洞川)	
	6月16-17日	国体近畿ブロック大会審判会議 (天理市)	
	6月17日	国体第2次予選会 (生駒市)	
	7月1日	仮設クライミングボード竣工 (奈良県営プール) 使用期間7月1日から9月末日まで	
	7月15日	県民さわやかスポーツフェスティバル 兼近畿ブロック大会 リハーサル (奈良市)	
	7月28-29日	国体近畿ブロック大会 (奈良市, 生駒市) 〈主管〉	
	9月9日	創立50周年記念式典及び祝賀会 (奈良・春日野荘)	

資 料

規約

加盟団体

役員

指導員, 審判員

歴代役員

各種賞受賞者

国体出場選手, 監督, 役員

奈良県山岳連盟規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、奈良県山岳連盟という。

(所在地)

第2条 この連盟の事務所は奈良県内に置く。

(組 織)

第3条 この連盟は、奈良県内にある登山団体で第4条の目的に賛同するものをもって組織する。

(目 的)

第4条 この連盟は、健全な登山の普及と啓蒙に努め、登山を通じてスポーツの振興に寄与し、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(事 業)

第5条 この連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 加盟団体の向上発展に資する事業
- 二 山岳遭難の予防及び対策のための事業
- 三 登山に関する調査と研究
- 四 自然保護活動の推進
- 五 登山大会、競技大会、講習会などの開催
- 六 その他、目的を達成するために必要な事業

第2章 加 盟

(加 盟)

第6条 この連盟に加盟しようとする団体は、役員会の承認を受けなければいけない。

- 2 加盟の手続きは、所定の入会申込書に加盟金及び1年分の会費を添えて申し込むものとする。

(脱 退)

第7条 加盟団体がこの連盟を脱退しようとするときは、理由を付して脱退届を提出しなければならない。

(除 名)

第8条 この連盟の名誉を傷付け、またはこの連盟の目的に反する行為のあった加盟団体は、役員会及び総会の承認を得て、会長が除名することができる。

第3章 役 員

(役員の種類)

第9条 この連盟に、次の役員を置く。

- 一 会 長 1名
- 二 副会長 若干名
- 三 理事長 1名
- 四 副理事長 若干名
- 五 事務局長 1名

- 六 会計理事 1名
- 七 理事 若干名
- 八 会計監事 2名
- 九 評議員 若干名

2 この連盟に、次の役員を置く事ができる。

- 一 名誉会長 1名
- 二 顧問 若干名
- 三 参与 若干名

(役員の仕事)

第10条 会長は、連盟を代表し、会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ定めた順序によりその職務を代行する
- 3 理事長は、会務の執行を統括する。
- 4 副理事長は、理事長を補佐し、理事長が事故あるときまたは欠けたときは理事長があらかじめ定めた順序によりその職務を代行する。
- 5 事務局長は、事務局を統括し、事務局業務を処理する。
- 6 会計理事は、予算、決算に関する業務及び金銭の出納にあたる。
- 7 理事は、役員会に出席し、会務の審議及び業務の執行にあたる。
- 8 会計監事は、総会に付された決算の監査をおこなう。
- 10 評議員は、役員会に出席し、会務の審議を行うほか、会長から指示される特定の業務の企画、立案にあたる。
- 11 名誉会長、顧問は、会長の諮問に応じて、意見を述べまたは必要と認める事項について建議することができる。
- 12 参与は、会長の諮問に応じて意見を述べることができる。

(役員を選出)

第11条 第9条第1項に定める役員は、役員会で定められた方法により総会で選任する。

- 2 第9条第2項に定める役員は、役員会の推挙により会長が委嘱する。

(役員の仕事)

第12条 この連盟の役員の仕事は、2年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 任期の途中で、補充選任された役員の仕事は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、その任期満了後も後任者が就任するまでは、その職にあたる。

第4章 会 議

(総 会)

第13条 総会は毎年1回、会計年度終了後3ヶ月以内に会長が招集する。

- 2 会長が必要と認めたときは、臨時に総会を招集することができる。
- 3 3分の1以上の加盟団体が、会議の目的事項を示して総会の招集を請求した場合は、会長はその日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

(総会の招集)

第14条 総会の招集は、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を記載した書面をもって、少なくとも7日以前に通知しなければならない。

(総会に付議すべき事項)

第15条 次の事項は、総会に提出して承認を受けなければならない。

- 一 事業計画及び収支予算についての事項
- 二 事業報告及び収支決算についての事項
- 三 財産目録についての事項
- 四 役員を選任
- 五 規約の改定
- 六 その他、役員会において必要と認めた事項

(総会の構成と成立)

第16条 総会は、構成団体の代表者または代理者の2分の1以上の出席をもって成立する。ただし委任状の行使を妨げない。

(総会の議決)

第17条 総会の議事は、この規約で特別に定めるものを除き、前条の出席者の過半数をもって決定し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(役員会)

第18条 役員会は、第9条に定める役員をもって構成し、総会から付託された会務並びに急を要する事項の審議及び執行にあたる。

2 役員会は、理事長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、または役員3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長は20日以内に役員会を招集しなければならない。

3 役員会の議長は、理事長がつとめ、理事長事故あるときは副理事長がつとめる。

(委員会)

第19条 第4条の目的を遂行するため、役員会の議決を経て、専門委員会及び特別委員会を設けることができる。

2 専門委員会及び特別委員会に必要な事項は、別に定める。

第5章 資産及び会計

(資産)

第20条 この連盟の資産は、次のとおりとする。

- 一 設立当初から継承した財産目録記載の財産
- 二 加盟団体からの加盟金及び会費収入
- 三 補助金及び寄付金
- 四 事業に伴う収入
- 五 資産から生じる果実
- 六 その他の収入

(資産の管理)

第21条 この連盟の資産は、会長が管理する。

(加盟金及び年会費)

第22条 この連盟の加盟金及び会費の年額は次のとおりとする。

- 一 加盟金 10,000円、ただし中体連登山部については、これを免除する。
- 二 年会費 10,000円、ただし中体連登山部については、5,000円とする。

(会計年度)

第23条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第6章 規約の改定

(規約の改定)

第 24 条 この規約は、役員会において役員の 3 分の 2 以上の同意を得て、総会において議決 権を有する会員の 3 分の 2 以上の同意を得なければ改定することができない。

付 則

1952 年 4 月 1 日 制定、施行

1996 年 5 月 26 日 改定

1998 年 6 月 7 日 第 22 条第二項改定

[資料]

奈良縣山岳連盟規約（旧）

第一章 總 則

- 第一條 この連盟は奈良縣山岳連盟と稱する
第二條 この連盟の事務所は理事長自宅若くは勤務先に置く
第三條 この連盟は奈良縣民の登山及びスキーの健全なる發展振興をはかるを以て目的とする
第四條 この連盟は奈良縣運動体育連盟に加盟する奈良縣山岳スポーツの統合団体である

第二章 事 業

- 第五條 この連盟は第三條の目的達成するため次の事業を行う
一. 会員たる各団体連合して登山，スキー，ハイキング募営等の実施
二. 縣民体育大会，國民体育大会等奈良縣体育運動連盟の委嘱による登山関係の事務の実施
三. 廣く山岳スポーツに関する啓蒙 宣傳 指導 教育 講習 講演等の実施
四. 奈良縣を中心とした山地に関する調査研究
五. その他目的達成に必要な事業
第六條 この連盟は奈良縣内の登山又はスキーの加盟団体を以て組織する
同種同格の山岳団体の連合体はこの連盟の一員として一括加入する事が出来る
加盟希望の場合は別に定める様式により加盟を申込み 連盟の承認を受けねばならぬ
第七條 この連盟に次の役員を置く
会長 一名
副会長 一名又は二名
理事長 一名
理事 若干名
第八條 理事は加盟団体の役員中より選出し その定数は毎年總會で定める
第九條 理事の互選により会長 副会長 理事長を選任する. 会長 副会長は理事の定数外とする
第十條 会長は本連盟の代表として之を統轄する
副会長は会長を補佐し 会長事故ある時は之に代る
理事長は会長の意を体して会務を總理する
理事は庶務 會計 事業 渉外の四部を分掌し 理事会に於て選任した理事一名が各部の主任となる
第十一條 役員任期は一ヶ年とするが重任を妨げない
第十二條 會議は毎年度初めに總會を開き 予算 決算 役員選出 事業等を審議決定する
議決はすべて出席者の過半数により決定し 賛否同数の場合は議長が之を定める

第四章 会 計

- 第十三條 この連盟の歳入は会費 寄付金その他を以て之に当てる
第十四條 この連盟の会費は年額三百円とする

附 則

- 一. 本連盟の事業及び会計年度は毎年四月より翌年三月までとする
- 一. この規約の変更は總會の議決を経なければならぬ
- 一. この規約は昭和二十九年七月三日より実施する

加盟団体

団体名	事務所住所	電話番号	代表者
青垣の山脈を歩く会	奈良市南半田町15 米澤 清方	0742-22-2095	小松 勝
明日香山岳会	高市郡明日香村平田1434-1 山口滋正方	0744-54-2427	辰己恵規
篝山の会	北葛城郡當麻町竹ノ内781 松下正一方	0745-48-5646	松下正一
橿原山岳会	橿原市中曾司町690 横山須直方	0744-22-4608	横山須直
高体連登山・スキー部	奈良市柏木町248 奈良商業高等学校気付	0742-33-0293	登り賢二
中体連登山部	奈良市南永井町98-1 都南中学校気付	0742-61-7070	松本恭和
天理よろづ相談所山岳会	天理市三島町200 天理よろづ相談所気付	0743-63-5611	松田 勝
奈良岳志会	五条市中町467-2 藤原義弘方	0747-22-6426	吉村忠明
奈良山岳会	奈良市神殿町407-24 梅屋則夫方	0742-63-0086	福本高治

2001年度奈良県山岳連盟役員名簿

事務所 〒633-0074 桜井市芝830 朝岡男也方 Tel & Fax 0744-42-5552

役職名	氏名	住所	電話	所属団体
顧問	橋本源之丞	632-0078 大和市杉本町306	0743-62-0300	奈良山岳会
	米澤 清	630-8281 奈良市南半田中町15	0742-22-2095	青垣の山脈を歩く会
会長	山口健次郎	633-0112 桜井市初瀬1618	0744-47-8110	奈良山岳会
副会長	當麻篤美	635-0081 大和高田市高砂町4-31	0745-52-0291	橿原山岳会
	吉村忠明	639-1125 大和郡山市八条町747	0743-56-0202	奈良岳志会
	大日公一	631-0806 奈良市朱雀町2-1-22	0742-71-2640	高体連
	廣 達弥	630-8301 奈良市高畑町1269-3	0742-24-3838	天理よろづ相談所山岳会
理事長	朝岡男也	633-0074 桜井市芝830	0744-42-5552	奈良山岳会
副理事長	梅屋則夫	630-8441 奈良市神殿町407-24	0742-63-0086	奈良山岳会
事務局長	藤原義弘	637-0061 五條市中町467-2	0747-22-6426	奈良岳志会
会計理事	藤本直民	633-0315 宇陀郡室生村大野116	07459-2-2652	高体連
理事	迫田良信	632-0071 天理市田井庄町546 矢追マンション305号	0743-63-5241	天理よろづ相談所山岳会
	横山須直	635-0845 橿原市中曾司町690	0744-22-4608	橿原山岳会
	登り腎二	630-1111 奈良市須川町787-1	0742-95-0251	高体連
	前田善彦	634-0824 橿原市一町711-2	0744-27-2023	高体連
	山口滋正	634-0144 明日香村平田1434-1	0744-54-2427	明日香山岳
	内炭孝夫	634-0052 橿原市南妙法町15-3	0744-28-3197	奈良山岳会
	小松 勝	637-0041 五條市本町3-5-41	07472-2-5144	青垣の山脈を歩く会
	田中恭一	619-1127 京都府相楽郡加茂町 南加茂台12-5-14	0774-76-5837	奈良岳志会
監事	小城文男	633-0204 宇陀郡榛原町福地59	0745-82-2038	篝山の会

歴代役員

(空欄は不明、－印は該当が無いことを表す)

年 度	顧問(名誉会長)	会 長	副会長	理事長	副理事長
1951年 昭和26年		笹谷良造	小林順吉, 戸田忠之	米田信雄	
1952年 昭和27年		笹谷良造	小林順吉, 戸田忠之	米田信雄	
1953年 昭和28年		笹谷良造	小林順吉, 戸田忠之	米田信雄	
1954年 昭和29年		笹谷良造	小林順吉, 森本隆男	橋本源之丞	
1955年 昭和30年		笹谷良造	小林順吉, 森本隆男	橋本源之丞	
1956年 昭和31年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1957年 昭和32年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1958年 昭和33年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1959年 昭和34年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1960年 昭和35年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1961年 昭和36年		笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄	
1962年 昭和37年		笹谷良造	小林順吉	坂口圭正	
1963年 昭和38年		小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	
1964年 昭和39年		小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	
1965年 昭和40年	笹谷良造	小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	米澤 清
1966年 昭和41年	笹谷良造 宮田金寿	小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	米澤 清
1967年 昭和42年	笹谷良造 宮田金寿	小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	
1968年 昭和43年	笹谷良造 宮田金寿	小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	坂口圭正	
1969年 昭和44年		小林順吉	広瀬敏雄, 米田信雄, 秋永政孝	城山半次郎	－
1970年 昭和45年		小林順吉	米田信雄, 城山半次郎	米澤 清	－
1971年 昭和46年		小林順吉	米田信雄, 城山半次郎	米澤 清	－
1972年 昭和47年		小林順吉	米田信雄, 城山半次郎	米澤 清	－

事務局長	会計理事	常任理事, 委員長	監 事	日山協理事
		広瀬敏雄, 菅野保, 保仙, 米田信雄ほか 7名		
		広瀬敏雄, 菅野保, 保仙, 米田信雄ほか 7名		
坂本 実		久保清右衛門他36名		
坂本 実				
坂本 実				
坂本 実				
坂本 実		笠野卓夫, 小城優, 竹村(なら白峰会), 竹 本隆一, 當麻篤美, 仲西猛俊		城山半次郎
坂本 実		笠野卓夫, 小城優, 竹村(なら白峰会), 竹 本隆一, 當麻篤美, 仲西猛俊		城山半次郎
坂本 実				
坂本 実				

年 度	顧問(名誉会長)	会 長	副会長	理事長	副理事長
1973年 昭和48年		小林順吉	米田信雄, 城山半次郎	米澤 清	—
1974年 昭和49年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 城山半次郎	米澤 清	—
1975年 昭和50年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 城山半次郎	米澤 清	—
1976年 昭和51年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 城山半次郎	米澤 清	—
1977年 昭和52年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 城山半次郎	米澤 清	—
1978年 昭和53年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 城山半次郎	米澤 清	—
1979年 昭和54年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 城山半次郎, 米澤清	山口健次郎	—
1980年 昭和55年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 城山半次郎, 米澤清	山口健次郎	—
1981年 昭和56年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 米澤 清	山口健次郎	—
1982年 昭和57年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 米澤 清	山口健次郎	大日公一
1983年 昭和58年		坂口圭正	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 米澤 清, 吉村忠明	山口健次郎	大日公一
1984年 昭和59年	小林順吉 坂口圭正	米澤 清	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 當麻篤美, 吉村忠明	山口健次郎	大日公一
1985年 昭和60年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 當麻篤美, 吉村忠明	山口健次郎	大日公一
1986年 昭和61年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 當麻篤美, 吉村忠明	山口健次郎	大日公一
1987年 昭和62年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 久保清右衛門, 橋本源之丞, 當麻篤美, 吉村忠明	山口健次郎	大日公一
1988年 昭和63年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫
1989年 平成元年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫
1990年 平成2年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫
1991年 平成3年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫
1992年 平成4年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫

事務局長	会計理事	常任理事, 委員長	監 事	日山協理事
坂本 実				
坂本 実				
坂本 実				
坂本 実	品川 勝			
坂本 実	品川 勝			
坂本 実	品川 勝			
—	山口健次郎		小林順吉	
—	山口健次郎		小林順吉	
梅屋則夫	山口健次郎	當麻篤美, 迫田良信, 西田貞二, 大日公一 中野清, 岡西新作	小林順吉	山口健次郎
梅屋則夫	山口健次郎	當麻篤美, 迫田良信, 中野清, 西田昌二, 岡西新作	小林順吉	山口健次郎
梅屋則夫	山口健次郎	當麻篤美, 迫田良信, 西田昌二, 福本高治 朝岡男也	小林順吉	山口健次郎
梅屋則夫	山口健次郎	當麻篤美, 迫田良信, 西田昌二, 福本高治 朝岡男也	小林順吉	山口健次郎
梅屋則夫	上田 清	迫田良信, 朝岡男也, 榊田高広, 中東哲, 藤原義弘, 中野 清, 当麻順一	小林順吉	
梅屋則夫	上田 清	迫田良信, 朝岡男也, 榊田高広, 中東哲, 藤原義弘, 中野 清, 小城文男, 当麻順一	小林順吉	
梅屋則夫	上田 清	迫田良信, 朝岡男也, 榊田高広, 中東哲, 藤原義弘, 中野 清, 小城文男, 当麻順一	小林順吉	
—	藤原義弘	迫田良信, 朝岡男也, 中東 哲, 一柳恵信 小城文男		
—	藤原義弘			
—	藤原義弘			
—	藤原義弘			
—	藤原義弘	迫田良信の他左記役員が兼務		

年度	顧問(名誉会長)	会長	副会長	理事長	副理事長
1993年 平成5年	小林順吉	米澤 清	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 山口健次郎	大日公一	梅屋則夫
1994年 平成6年	小林順吉 米澤 清	山口健次郎	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一	朝岡男也	梅屋則夫
1995年 平成7年	小林順吉 米澤 清	山口健次郎	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一	朝岡男也	梅屋則夫
1996年 平成8年	小林順吉, 橋本源之丞, 米澤清	山口健次郎	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一	朝岡男也	梅屋則夫
1997年 平成9年	小林順吉, 橋本源之丞, 米澤清	山口健次郎	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一	朝岡男也	梅屋則夫
1998年 平成10年	小林順吉, 橋本源之丞, 米澤清	山口健次郎	笠野卓夫, 當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一, 広 達弥	朝岡男也	梅屋則夫
1999年 平成11年	橋本源之丞 米澤 清	山口健次郎	當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一, 広 達弥	朝岡男也	梅屋則夫
2000年 平成12年	橋本源之丞 米澤 清	山口健次郎	當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一, 広 達弥	朝岡男也	梅屋則夫
2001年 平成13年	橋本源之丞 米澤 清	山口健次郎	當麻篤美, 吉村忠明, 大日公一, 広 達弥	朝岡男也	梅屋則夫

事務局長	会計理事	常任理事, 委員長	監事	日山協理事
—	藤原義弘	迫田良信の他左記役員が兼務		
藤原義弘	藤本直民	大峠和彦, 迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫 登り賢二, 小城文男	橋本源之丞	
藤原義弘	藤本直民	大峠和彦, 迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫 登り賢二, 小城文男	橋本源之丞	山口健次郎
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝	小城文男, 大峠和彦	山口健次郎
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝	小城文男, 大峠和彦	
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝, 山口滋正	小城文男, 大峠和彦	
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝, 山口滋正	小城文男, 大峠和彦	山口健次郎
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝, 山口滋正	小城文男, 大峠和彦	山口健次郎
藤原義弘	藤本直民	迫田良信, 前田善彦, 内炭孝夫, 登り賢二 小松勝, 山口滋正	小城文男, 大峠和彦	

各種賞の受賞者

(*)は物故者を表す

日本体育協会功労者表彰

1997年 米澤 清

日本山岳協会30周年記念表彰 1990年

笠野卓夫(*), 小林順吉(*), 米澤 清, 山口健次郎

日本山岳協会40周年記念表彰 2000年5月28日

朝岡男也, 梅屋則夫, 大日公一, 當麻篤美, 山口健次郎, 吉村忠明, 米澤 清

奈良県スポーツ賞

1969年 山口健次郎, 福本高治, 川合進, 巽光博 (福井国体入賞による)

1985年 朝岡男也, 福本博子, 梶本修, 龍本高志, 島本知明, 塩見和文, 林照茂,
米原三環子, 谷口雅子, 松本幸子, 安井康夫, 松田隆雄, 高上馬希重
茶谷美穂, 前田清美, 竹村直美 (奈良国体入賞による)

奈良県体育協会功労者表彰

1964年 笹谷良造(*), 小林順吉(*), 米田信雄(*), 広瀬敏雄(*), 坂口圭正(*),
城山半次郎(*), 橋本源之丞, 堀内 保, 山本清左エ門, 米澤 清

1967年 角井徳司

1968年 笠野卓夫(*), 仲西猛俊

1971年 岡本 皓, 竹本隆一, 宮田七郎, 山口健次郎, 横山隆義(*)

1973年 苧木一郎

1974年 當麻篤美, 花田信弘, 古川通明

1975年 岩本公介, 長田浩一

1976年 坂本 実, 細谷義孝

1977年 茨木久重

1996年 吉村忠明

1997年 梅屋則夫

1998年 大日公一

奈良県体育協会奨励賞

1986年3月16日 朝岡男也, 大日公一, 上田 清, 桐山直美, 松本幸子, 米原三環子, 高上馬希重,
松田隆雄, 吉田優, 斉藤奈生子, 城 環, 虎杖恵(鳥取国体入賞による)

国体出場選手監督と大会の変遷

1951年(昭26) 6回中国	監督*:森本隆男 選手:横山隆義,岩井宏実 注:第9回までは地区別の開催。今回は中国地区大山で,日本山岳会山陰支部によって運営された。
1952年(昭27) 7回東北	監督*:笹谷良造 選手:坂本,浜田,米澤,森,田中,植田 注:鳥海山が会場地,日本山岳会東北支部が運営。
1953年(昭28) 8回四国	監督*:広瀬敏雄 選手:米澤清,永田禎伸,岩田 注:石鎚山で開催,当該地域の山岳連盟が運営。
1954年(昭29) 9回北海道	監督*:米田信雄 選手:岡本,福田,森 注:初めて幕営となる。会期中に会場で全日本山岳連盟結成の話し合いをされたが結論は出なかった。
1955年(昭30) 10回神奈川	不参加 注:今回から,地区単位の開催ではなく,県単位の開催になった。全国へ参加の呼びかけはなかった。
1956年(昭31) 11回兵庫	登山部門の開催中止(六甲山で開催予定であった)
1957年(昭32) 12回静岡	監督*:丸山温行,選手:一般:山口健次郎,高校:菊岡宏吉,稲田薄明,田中耕二 注:選手監督は1県5名(監督1,一般1,高校3)
1958年(昭33) 13回富山	注:今回より各コースについて優秀チームを選定し賞賛する講評形式が採用されたされた。
1959年(昭34) 14回東京	選手:小城他
1960年(昭35) 15回熊本	選手:永田他5 注:日本山岳協会主催の国体登山部門となる。
1961年(昭36) 16回秋田	監督*:橋本源之丞,選手:一般:総谷善弘,高校:木村太郎,長岡征之,小谷毅
1962年(昭37) 17回岡山	監督*: 阪本他5名
1963年(昭38) 18回山口	注:今回は,監督と選手を併せて一般3名,高校3名(計7名)とし,監督は選手と別行動をとる。
1964年(昭39) 19回新潟	監督*:仲西猛俊 一般選手:吉崎秀夫,若井儀一,上山正光 注:選手は一般:4名,高校3名。監督はリーグとして一般に組み込まれて選手と同一行動。
1965年(昭40) 20回岐阜	一般選手:藤井良幸,総谷善弘他 高校 監督*:森本喜光 優秀県表彰 注:各コースについて3チームに表彰状を授与する制度が始まる。
1966年(昭41) 21回大分	一般 監督*:仲西猛俊 選手:若林稔,松本(吉野),田嶋典夫
1967年(昭42) 22回埼玉	監督*: 一般選手 西田他
1968年(昭43) 23回福井	一般 監督*:山口健次郎 選手:福本高治,川合進,巽光博 優秀県表彰 高校
1969年(昭44) 24回長崎	中辻他3名 注:今回からチームの総合力判定のため競技的要素が取り入れられた

1970年(昭45) 25回岩手	一般 監督*:山口健次郎 選手:津川博美,吉村(扇田)忠明,稲田徹 高校 監督*:長田浩一 選手:村井弘人,喜田康之 <チ-フリーダ*:城山半次郎> 注:チ-フリーダは現在の主任審判員に相当する
1971年(昭46) 26回和歌山	一般 監督*:竹本隆一 選手:北?,桐谷,福田(吉野山岳会) 高校 監督*:森本喜光 選手:稲田,島田(高田商業高校)
1972年(昭47) 27回鹿児島	一般 監督*:岡西新作 選手:稲田徹,津川博美,池田千賀志 高校 監督*:樽井真敏 選手:高井信夫,大西規雄
1973年(昭48) 28回千葉	一般 監督*:梅屋則夫 選手:中東真,他
1974年(昭49) 29回茨城	一般 監督*:日高晃 選手:大中敬雄,中村正治,宮西節子 高校 監督*:東 隆幸 選手:辻本晃孝,樹田高広 注:今回まで監督はリーグを兼ね,選手と同一行動をする
1975年(昭50) 30回三重	監督:梅屋則夫.成年選手:朝岡男也,松井得造,楨田(山田)隆三 少年選手:平田久男,上田喜章,松井重宏 <県外リーグ*:山口健次郎> 注:1 今大会より成年,少年の2種別となり,監督は選手と別行動になる.また,監督は成年,少年の何れにつくかを選ぶ. 2. 県外リーグは現在の副主任審判員に相当する.
1976年(昭51) 31回佐賀	監督:中野清 成男選手:川畑忠仁,勝井由幸,当麻裕志 少男選手:坂口治仁,中川正秋,田中伸正
1977年(昭52) 32回青森	一般 監督:岡西新作 選手:岡崎順次:池田千賀志,松岡正泰 注:今回より、少年女子が設けられ3種別となる。縦走、踏査の2種目が定められる。各種別について5位まで順位が発表される。踏査競技が導入され審査対象となった。
1978年(昭53) 33回長野	成男 監督:梅屋則夫 選手:米田 進,井上雅文,三好好郎 成女 監督:朝岡男也 選手:宮西節子,佐古喜美子,福本博子 少女 監督:藤村安造 選手:山本 泉,桐山直美,秋山典子 注:縦走,踏査,登はんの3種目となり,各種目3位まで表彰される.また,成年,少年各々男女4種別となる
1979年(昭54) 34回宮崎	成男 監督:西田昌二 選手:朝岡男也,三好好郎,西中正則 成女 監督:宮西節子 選手:福本博子,佐古喜美子,佐古靖代 注:種別毎に3位まで,男女毎の総合順位を決定する.今回までは公開競技で登山部門と呼ばれていた.
1980年(昭55) 35回栃木	成男 監督:福本高治 選手:三好芳郎,塩見和文,西川修平 注:正式種目,山岳競技となる.
1981年(昭56) 36回滋賀	成男 監督:岡西新作.選手:藤本成俊,西中正則,岡本公一 総合31位 <審判員:梅屋則夫,大日公一,迫田良信,吉崎秀夫>
1982年(昭57) 37回島根	成男 監督:朝岡男也 選手:塩見和文,島本知明,安藤清彦 総合22位 成女 監督:西田昌二 選手:米原三環子,佐古靖世,谷口雅子 総合8位 少女 監督:龍本高志 選手:木原佐容子,関井玲子,川村典子

1983年(昭58) 38回群馬	<p>成男 監督:朝岡男也. 選手:塩見和文, 榊田高広, 山田康夫 総合12位</p> <p>成女 監督:福本博子. 選手:米原三環子, 谷口雅子, 松本幸子 総合6位</p> <p>少男 監督:梶本修. 選手:山田克男, 真木勲, 安井康夫 総合8位</p> <p>少女 監督:龍本高志, 選手:茶谷美穂, 佐藤久美, 榎本幸子 総合8位</p> <p><副主任審判員:迫田良信></p>
1984年(昭59) 39回奈良	<p>成男 監督:朝岡男也. 選手:島本知明, 塩見和文, 林照茂 総合1位表彰</p> <p>成女 監督:福本博子. 選手:米原三環子, 谷口雅子, 松本幸子 総合1位表彰</p> <p>少男 監督:梶本修. 選手:安井康夫, 高上馬希重, 松田隆雄 総合1位表彰</p> <p>少女 監督:龍本高志, 選手:茶谷美穂, 前田清美, 竹村直美 総合1位表彰</p>
1985年(昭60) 40回鳥取	<p>成男 監督:近藤一男. 選手:松本英一, 小川威, 福西英俊 総合15位</p> <p>成女 監督:朝岡男也. 選手:桐山直美, 松本幸子, 米原三環子 総合4位</p> <p>少男 監督:大日公一. 選手:高上馬希重, 松田隆雄, 吉田優 総合7位</p> <p>少女 監督:上田清. 選手:斉藤奈生子, 城 環, 虎杖恵 総合6位</p> <p><主任審判員:梅屋則夫></p>
1986年(昭61) 41回山梨	<p>成男 監督:藤原義弘. 選手:外山裕, 小川威, 福西英俊</p> <p>少女 監督:石本昇. 選手:斉藤奈生子, 城 環, 虎杖恵</p>
1987年(昭62) 42回沖縄	山岳競技は行われなかった
1988年(昭63) 43回京都	<p>成男 監督:朝岡男也. 選手:内炭孝夫, 香島光司, 岡本公一 総合18位</p> <p>成女 監督:米原三環子. 選手:松本幸子, 濱田洋子, 乾有加里 総合10位</p> <p>少男 監督:石本昇. 選手:高嶋航, 木田知宏, 生井拓 総合5位</p> <p><主任審判員:大日公一, 副主任審判員:迫田良信, 審判員:大峠和彦></p>
1989年(平元) 44回北海道	<p>成男 監督:朝岡男也. 選手:内炭孝夫, 香島光司, 岡本公一</p> <p>少男 監督:石本昇. 選手:大阪弘一, 福本滝男, 竹田学</p> <p>少女 監督:山村生. 選手:森村津子, 中村香織, 今井祥子</p>
1990年(平2) 45回福岡	成男 監督:香島光司. 選手:内炭孝夫, 石田達也, 大阪弘一
1991年(平3) 46回石川	<p>成男 監督:香島光司. 選手:内炭孝夫, 大阪弘一, 高嶋航 総合13位</p> <p>成女 監督:宮西節子. 選手:福本博子, 乾有加里, 松本範子 総合14位</p>
1992年(平4) 47回山形	<p>成男 監督:朝岡男也. 選手:内炭孝夫, 石田達也, 高嶋航 総合15位</p> <p>成女 監督:米原三環子. 選手:乾有加里, 中村香織, 山口有紀 総合11位</p>

		少男 監督:小原庄之助. 選手:福井正洋, 鶴本大祐, 梅田聡 総合15位
1993年(平5)	48回東四国・徳島香川	成男 監督:朝岡男也. 選手:内炭孝夫, 高嶋航, 木田知宏 <主任審判員:大日公一>
1994年(平6)	49回愛知	成男 監督:石田達也. 選手:内炭孝夫, 宮本高広, 高嶋航 総合4位 少女 監督:前田善彦. 選手:宮崎陽子, 坂下和子, 藤本妙子
1995年(平7)	50回福島	成男 監督:朝岡男也. 選手:内炭孝夫, 高嶋航, 福井正洋 総合10位
1996年(平8)	51回広島	成男 監督:前田善彦, 選手:平井洋一, 嶋岡克幸, 安田昌弘 総合35位
1997年(平9)	52回大阪	成男 監督:前田善彦, 選手:嶋岡克幸, 安田昌弘, 神田裕之 総合34位 <副主任審判員:迫田良信, 審判員:藤本直民>
1998年(平10)	53回神奈川	成男 監督:前田善彦, 選手:嶋岡克幸, 神田裕之, 安田昌弘 総合26位
1999年(平11)	54回熊本	成男 監督:前田善彦, 選手:嶋岡克幸, 神田裕之, 高澤恒雄 総合36位
2000年(平12)	55回富山	成男 監督:前田善彦, 選手:嶋岡克幸, 神田裕之, 高澤恒雄 総合37位

- ・ < >は派遣役員を表す. わかくさ国体の役員は省略
- ・ 選手欄が空白の部分は, 出場しているが選手名不明
- ・ 監督* 印は, 監督がチームのリーダーを兼ね, 選手と同一行動をした
- ・ 出場時以降に改姓した人は, 現在の姓で表し()内に出場時の姓を併記した

表紙カットは比較的古い岳連旗を
モチーフにしたもの

50年のあゆみ 編集委員(50音順)
朝岡男也 梅屋則夫
大日公一 當麻篤美
山口健次郎

奈良県山岳連盟
50年のあゆみ

発行日 2001年9月9日
著者 50年のあゆみ編集委員会
発行 奈良県山岳連盟
〒633-0112 桜井市芝 830
朝岡男也方
印刷 小川印刷工業株式会社

奈良県山岳連盟

50年のあゆみ

2001年9月

正誤表

48頁8行目 山口滋正 取得年月 誤：1998/08 正：1999/09